maturity
マチュリティ

2017-JAN
104

公益社団法人 日本産業退職者協会
JARP

maturity

東日本大震災からの復興がいまだ道半ばにあるなかで、２０１６年４月１４日以降熊本地方で地震が相次ぎ、甚大な被害が発生いたしました。被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げ、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

私たちは高齢者団体として東日本大震災後、会員の皆さまに救援募金を呼びかけ、ささやかではございますが関係先に寄付を行ってまいりました。

この募金活動を継続するにあたり、熊本地震の被災者の方々へのご支援も行うことといたしたく、重ね重ねのお願いではございますが、どうかご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

公益社団法人　日本産業退職者協会
理事長　　湯藤　哲

（お願い）払込取扱票の通信欄に、東日本大震災宛か、熊本地震宛かをご記入ください。

郵便振替　口座番号　00130－3－139353
加 入 者　公益社団法人　日本産業退職者協会
・おそれいりますが、振込手数料はご負担願います。

なお、当協会では協会の「私の大切な覚書き」の頒布収入の１％を災害義援基金等に寄付いたします。

公益社団法人 日本産業退職者協会（JARP）
Japan Association of Retired Industrial Persons

目　次 maturity 2017年／第104号

年頭所感	老後の居場所は自分で開発しよう ……	前田　晃伸	2
特集	～ますます長くなる高齢期を元気に過ごすコツ・原則～		
	少し無理をする健康づくりの薦め ……	生山　匡	4
ふれあいトークサロン	第27回　地震保険の歴史と課題 ……	栗山　泰史	9
	第28回　日本経済の実像 ……	山本　惠朗	13
社会貢献活動	順風満帆　シニア向けサロン ……	山鹿　素雄	18
	「かがやきサロン杉並」2016年の活動報告 ……	満田　将太	19
はつらつふれあいの集い	個人会員親睦会 ……		20
マチュリティ談話室	春夏秋冬楽しめるキノコ ……	川上　嘉章	22
	京都に行く ……	髙原　寛	22
	試練を乗り越えて ……	谷合　幸江	23
	私の生涯最大の体験 ……	久田　耕路	24
	退職後15年間を振り返って ……	福田　正文	25
ひとこと「とり」	安藤隆夫／石井　憲／伊藤敏雄／上床敬子 川口　喬／吉川敏孝／須賀紀哉／竹内求馬 谷口　博／夏井信芳／久村眞弘／吹田文彦 福田博吉／藤田信一／前田和子 ……		26
訃報	「畏友　森　保氏を偲ぶ」……	榎本　郁夫	28
読書案内	「週刊読書人」の編集長がすすめる本 ……	明石　健五	29
イベントだより	囲碁会／江戸東京歴史散歩の会／園芸クラブ／鎌倉探訪 カラオケ会Ⅱ／サロンコンサート／四季の会／詩吟会 自然を楽しむ会／水墨画教室／竹とんぼ同好会 築地海鮮丼川柳会／デジカメクラブ／パソコンクラブ 木版画教室／歴史を考える会 ……		30
首都圏だより	神奈川会／京葉会／埼玉会／西東京会 ……		40
広島支部だより	広島支部「陶芸同好会」の紹介 ……	宮本　信昭	46
損保懇だより	第29回　損保OBの集い ……	岩田　公雄	47
役員名簿／編集後記 ……			48
法人・団体　会員名簿			

表紙写真／「テイクオフ」（横浜ランドマークタワーにて）菅克之
裏表紙（会員作品）／岡野静江／菅克之／竜田正彦（広島）／永山義博（広島）

年頭所感

老後の居場所は自分で開発しよう

公益社団法人　日本産業退職者協会
会長　**前田晃伸**（てるのぶ）

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

２０１６年は、世界中で色々なことが起った。世界経済の成長が減速する中で、資源安、株安、日本では円高となり、金利水準は各国で低下を続け、日本では初めてのマイナス金利という状態になった。

政治面では、5月に日本で久々に伊勢志摩サミットが開催され、その後、米国のオバマ大統領が現職大統領として初めて原爆被爆地広島市を訪問。アメリカ国内の世論を乗り越えての訪問は、被爆者のみならず多くの人々から評価された。

一方で、民族を単位として形成されてきた国家の枠組みを超える形で、国を越えてＥＵ圏内でユーロという通貨統合まで行った欧州で、英国が国民投票によりＥＵ離脱という選択をしたことは、世界中に大きな衝撃を与えた。通貨統合のメリットを享受した国と、国家財政が破綻状態となり、ＥＵ加盟国から支援を受けることになったギリシア。域内移動の自由化で、移民問題を国内問題として抱えることになった国々。かつては経済的統合の成功事例と言われたＥＵだが政治統合まで到達しないまま、今や遠心力にさらされている。

秋にはアメリカ大統領選挙が実施された。1年以上にわたる選挙戦で従前の共和党路線と違う主張を強く打出したトランプ氏が民主党のヒラリー・クリントン候補を抑えて勝利するという結果になった。予想が外れた多くのマスコミは、大幅な軌道修正を余儀なくされた。アメリカが主導したＴＰＰを離脱するとか、不法移民規制を強化する等の自国第一の主張は、今後どのように評価されるのであろうか。

世界中の国々が、グローバル化を通じてお互いに良い形で成長を続けるという理想は、修正の方向に向かっている。これは世界全体が不安定化の方向に向いていることであり、民主主義、自由貿易を進めてきた国々にとっては、かなりの成長制約条件となりそうである。

話は変わるが、日本国内のことを考えてみると、超高齢社会を迎え人口構成が従来のピラミッド構造から大きく変化してきた。そのため高齢者の割合が急増することにより、定年制度をはじめ、年金、医療、介護など、全般にわたり、過去に

通用してきた標準モデルが、全て見直しの対象になってきた。このことは必要以上に世代間の不公平感みたいなものを拡大させることとなった。

昔から社会での助け合いは、「自助」、「共助」、「公助」が必要と言われてきた。自助、共助は個々人が生活している比較的狭い範囲の問題であるが、地方から都市部への人口移動が長期間続いた結果、従来地域が持っていた共助部分は、地方人口の急減により、維持困難になりつつある。国は地方創生を大きな政策目標にしているが、現実の人口減少を止めるだけの力にはなかなかなれない。議員定数の問題、一票の格差の問題は、都市部への人口集中の結果である。

都市は色々な機能が集中していることから、その効率性は地方に比べると圧倒的に良いが、一方で地域とかコミュニティの果たす役割については、過度な期待は出来ない。隣人が何をしているのかお互いに干渉しない居住状態が普通であるからだ。従って、課題の解決方法はお金を払う方法が最優先されてきた。

お金で解決する方法の欠点は、支払う人とサービスを提供する人の利害の対立が起こりやすいことである。加えて支払う側にはサービスを変更する自由も少ない。

このような制度上の弱点を緩和する方法の一つは、共助の一種ボランティア活動の併用である。１９９５年1月の阪神・淡路大震災を契機に、日本でも種々のボランティア活動が盛んとなり、一般の人々が気軽に参加するような環境が醸成された。２０１１年3月の東日本大震災、２０１６年の熊本地震でも大いに効果を発揮した。

しかし、このような大災害と違い、通常の家庭内で発生する介護問題等は、ボランティア活動とはなかなか結びつきにくい。その理由は、高齢化の進展とともに、介護については、極めて身近な全員の問題となっているからである。状況が違う個々人の問題を全て解決する方法はあるようで実はない。税金を使っての最低限の支援は出来るが、この公助には限界がある。負担者のことを考えれば当然のことである。今回のテーマに「居場所は自分で開発しよう」と決めた背景はここにある。

定年を過ぎても、更に長い人生が残されている日本の社会では、自分で自分に最も適した居場所をさがすしかあるまい。誰かが手配してくれることは期待できない。

私の近所に独り暮らしの小柄なおばあさんが住んでいた。90歳を超えても、バスに乗っておいしいパン屋さんにパンを買いに行っていた。

広い庭の植木や花壇の手入れもずっと一人でやっていた。95歳を超えてさすがに高い所までは手が届かなくなり、私と家内が時々庭木の剪定や草取りなどを手伝うようになった。週に何回かは、市の職員の方の訪問も受けるようになった。98歳になった２０１６年も、知人と色々な場所に旅行したりして、病気を抱えていながら明るく元気そのものだったが、自宅の柿の実が熟した頃の11月に皆に見送られて帰天した。

古希を超えると、老いた親を老人ホームに入れるかどうするかと相談されることが多くなった。これには正解がない。私は自分の居場所は自分で決めるのがベストと答えることにしている。自分の人生、最終章は、自分で選択すれば悔いは残らない。

～ますます長くなる高齢期を元気に過ごすコツ・原則～

少し無理をする健康づくりの薦め

爽健懇話会代表　医学博士　生山　匡（いくやま　ただし）

◉平均寿命は自分の寿命の参考にならない

平均寿命。毎年、厚生労働省の報告がマスコミを通して耳目に触れます。去年より延びたとか、世界有数の長寿国だとかの報道です。それを読む人の多くは、自分の寿命（余命）の参考にしています。

たとえば現在75歳男性。今年報告された男の平均寿命は約80歳。その報道に接すると、何となく差し引いて、あと5年ぐらいが同世代の平均的寿命で、自分もそうだから無理はできないなと考えてしまいます。が、それは間違いです。

平均寿命はその年に生まれた0歳の平均寿命で、しかも、これから今の諸状況が続くと仮定してのこと。医学の進歩などで寿命は延びるかもしれないし、逆に、経済が疲弊して寿命が縮むかもしれません。最近数十年でいえば、平均寿命は男女とも10年で2・5歳から3歳近く延びています。このままいけば、100年後の平均寿命は男でも100歳以上、女110歳になります。

自分の余命は、少なくとも平均余命を参考にすべきです。

現在75歳男性の平均余命は約12歳。つまり、87歳まで生きるのが平均です。その75歳の平均余命も10年で約1歳延びるので、自分の余命も1年ぐらいは延びる、つまり、88歳ぐらいと考えるべきです。

女性の75歳の場合は約92歳。65歳の方は、男性約88・5歳、女性約91・5歳になります。

◉二極化する高齢者の元気度

100歳はいわば超高齢者。その100歳以上の方を百寿者といいますが、日本の百寿者人口は、1963年153名から指数関数的に増え続けて、今年2016年は6万5000人以上、現在2000人に1人は百寿者です。人口問題研究所の将来予測では、2050年には少なく見積もって55万人とか。200人に1人が百寿者になるとのこと。が、この予測は医療・経済も含めてこれまでの状況が続くと仮定してのこと。そうはいかないでしょうし、現状でも百寿者には、

■**生山　匡**（いくやま　ただし）
爽健懇話会代表　山野美容芸術短期大学名誉教授　医学博士

1945年東京生まれ、石川県金沢市出身。東京教育大学（現筑波大学）体育学部、健康教育学科卒、専攻：運動生理学。浜松医科大学で医学博士号取得。大学卒業後、明治生命厚生事業団・体力医学研究所主任研究員、健康・体力づくり事業財団・主席主任研究員を経て山野美容芸術短期大学教授、名誉教授。その間、生活習慣とくに運動習慣による生活習慣病の予防・改善、および元気度の高いからだづくりに関する研究、市町村や企業、老人ホームなど現場での指導を行ってきた。モットーは人に喜んでもらえることを常に心がけること。

＜趣味＞
音楽特にハワイアンの演奏とボーカル。ゴルフ。美味いもの探求、日本酒通。

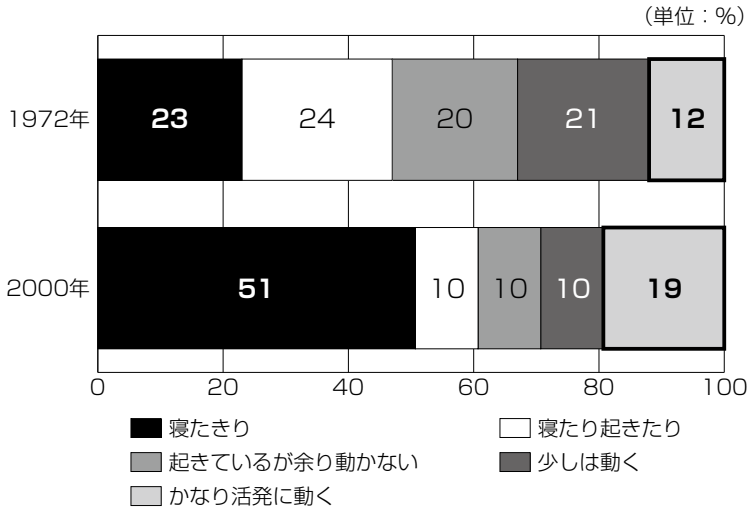
大きな問題があります。寝たきりの割合が増え続けているのです。

まず図1の黒い部分＝寝たきり率をご覧ください。東京都の百寿者の寝たきり率が、1972年から2000年にかけて23％から50％強へと2倍強増加しています。全国の状況も同じで、寝たきり率が増加し続けています。しかし、この図の右側を見ると朗報もあります。

〝かなり活発に動いている百寿者〟も12％から19％へと約1・6倍増えています。つまり、百寿者が元気か寝たきりかへと二極化しています。このことをどう解釈するか。私は次のように解釈しています。

現状の日本人の平均的な生活をしていると元気のない高齢者になるが、工夫して生活すれば、元気な高齢者になれる、と。

図1　百寿者の寝たきり率の割合（1972年調査との比較）



（出所）老人研情報　No.195　平成15年3月　東京都老人総合研究所発行

◉元気な高齢者になるには―その原則

生活習慣病の初期症状がいわゆるメタボリックシンドローム。内臓脂肪型の肥満にプラス、高血圧、高血糖、血液中の脂質異常ですが、それが進むと本格的な？　病気（糖尿病、腎疾患、脳卒中、心筋梗塞）になってしまいます。本格的な病気になればそれぞれ専門医の高度な医療による治療を受けることになります。従って、メタボリックシンドロームの予防・改善が極めて重要です。

メタボリックシンドロームになったとして、それを改善するには方法が三つあります。例えば高血圧になれば降圧剤を服用するというように医療による方法。二つ目は、サプリメントのような健康づくりの道具を利用する方法。三つ目が、生活習慣の健全化です。

この三つはどれも大切です。しかし、**元気な高齢者を目指すとすれば、まず生活習慣の健全化をはかる**べきです。例えば私の指導経験では、高血圧は、生活習慣を改善すれば、最大血圧を50ミリHg下げることも可能です。生活習慣を改善してもまだ血圧が高い水準にあれば降圧剤を服用するのが賢明な方法です。

◉具体的な元気なからだづくり

今の自分の生活習慣でよいか否か。その判断はなかなか難しい。一人ひとり遺伝子も違えば性格も違うので、意識しないでも健康的な生活ができている人もいるし、若い人は非健康的な生活をしていても、健康問題が顕在化していない場合、現状の生活でよいことになりかねない。

ただ本誌「マチュリティ」の読者は一応およそ65歳以上の方。だとすると、元気な高齢者を目指す場合、次ページの「これからの健康生活設計」を参考にして、左側の健康上の問題点で該当する項目があれば、線をたどって右側の方法を実践すれば健康で元気なからだづくりにつながり、ひいては認知症の予防など高齢者のこころの健康づくりに有効です。

なお、図2の中で、太い実線はより効果的な方法であることを示し、細い実線がそのつ

ぎに効果的、点線は効果を期待できることを表しています。

また○数字で示した項目は、社会であまり言われていないことなので以下に説明します。

①「太りすぎ」とは

太りすぎの判断は結構難しい。普通、ＢＭＩ（体格指数：身長と体重のバランス）や体脂肪率、ウエスト囲で判定します。平均的にはそれでいいのでしょうが、その判定基準に合わない人もいます。

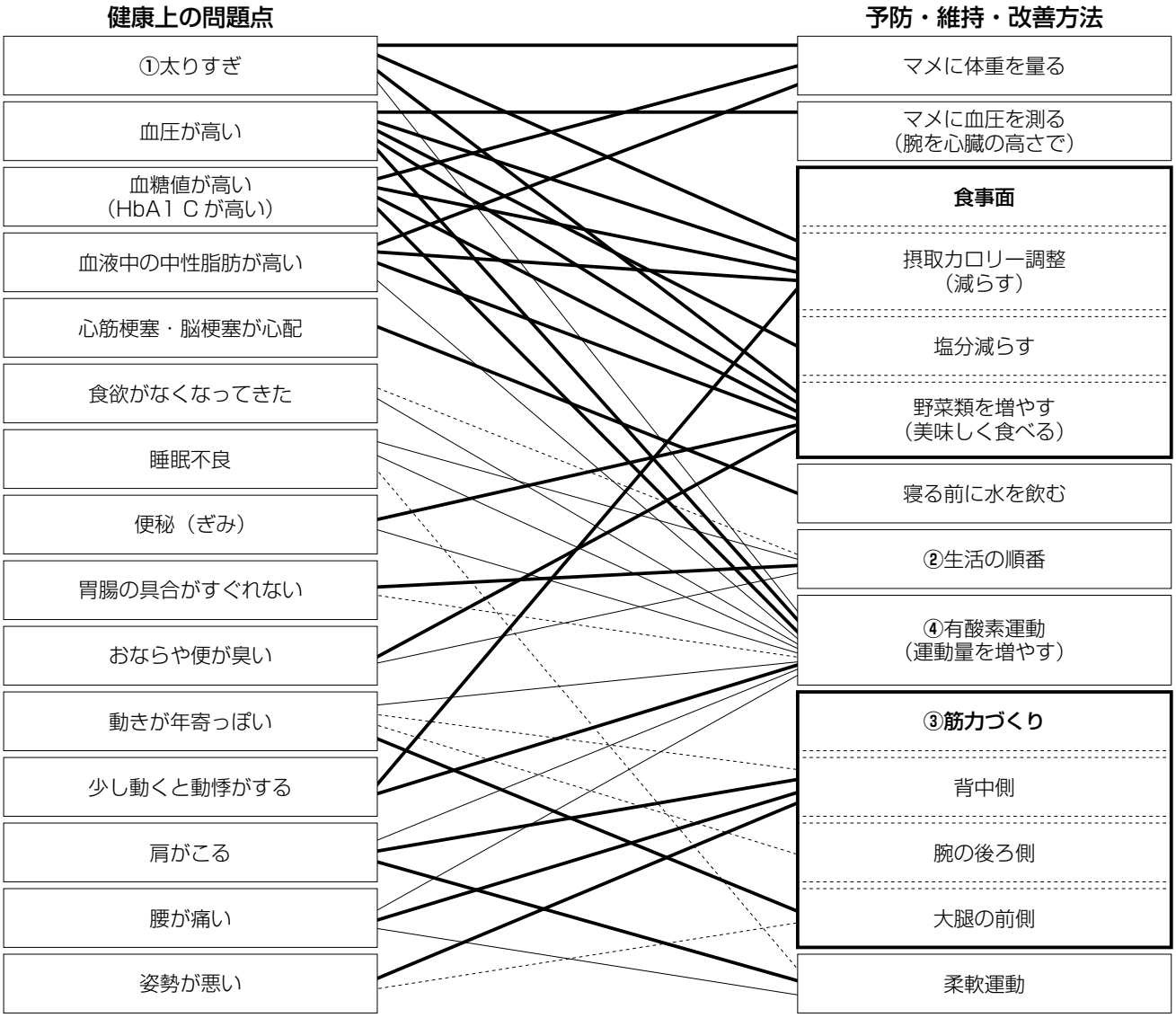
メタボでいえば問題は内臓脂肪。それを正確に計測するのは難しい。一般的に内臓脂肪は身長の発育が終了してから沈着するので、若いころの体重過多は皮下脂肪型の肥満、或は筋肉が多い、骨が太いといったことなので、若いころ、身長に対する体重が多くても健康上の問題はないのが一般的。いいかえれば、若いころの体重はその人の適正体重の目安です。

しかし、ほぼ50歳以降であれば、メタボの指標の血圧、血糖値、血液中の中性脂肪値が正常であれば体重が多くてもよいと著者は考えています。

またメタボの指標が異常であれば、それを

図２　これからの健康生活設計

左側の健康上の問題があれば、右側を参考にして、健康の改善計画を具体的に立ててみましょう。



（出所）生山匡作成

指標にしてダイエットし、指標の改善が見られなくなるまでダイエットを続けるのが現実的な対応です。

②生活の順番

消化器系の健康や安眠は、からだの仕組みに合う生活の順番と関係があります。

生活には三つの柱があります。「睡眠や休息」「食事」そして「活動」です。特に、食事と活動の順番が大切で、活動は食事の前が原則です。その理由をからだの仕組み＝生理学で説明したのが図3です。

図3　器官別に見た自律神経系（交感神経と副交感神経）の働き

交感神経	器官名、機能	副交感神経
敵と戦う体制 **（運動・活動）**		**休養**と栄養補給の体制
拡大・突出	瞳孔と眼球	縮小・陥没
速くなる	**心臓の拍動**	**遅くなる**
拡　張	冠状（心臓の）動脈	収　縮
上　昇	血　圧	低　下
抑　制	**消化管運動（蠕動運動）**	**促　進**
減　少	**消化液の分泌量**	**増　加**
グリコーゲンの分解	肝　臓	グリコーゲンの合成

（出所）生山匡作成

からだにはいろいろな神経がありますが、意思とは無関係にからだが自立（自律）して調節しているのが自律神経。汗をかくのも脈が速くなったり遅くなるのも自律神経の働きです。

その自律神経には反対に作用する交感神経と副交感神経があります。その働きを抜粋したのが図3で、心臓の拍動は交感神経が働く運動中に速くなるが、消化器系の働きは抑制あるいは減少する。反対に副交感神経の働きが優位になる休息・睡眠中に心拍数は少なくなるが消化器系の働きは促進・増加する。これは誰も反論できない純然とした生理学の事実です。

つまり、食後は副交感神経が働きやすいように、活動を控えることが消化器系を傷めないコツのひとつ。からだの仕組みがヒトと同じ動物の生活は、

空腹→狩り（活動）→食事→休息→空腹

で、それが自然です。

ところで、活動とは肉体的な活動も精神的な活動も生理学上の働きは同じ。したがって、**〝食後は心身ともに穏やかに〟**が原則です。

③筋力づくり

腰痛や肩こり、あるいは動作が鈍くなってきた方用の筋力づくりです。

全身に筋肉は約４００種類あります。いずれも加齢による衰えは防げませんが、特に障害が起きやすい、あるいは動作が年寄りっぽくなることに関連するのは筋肉や腱・靭帯などです。

まず理解していただきたいこと、それは、からだのあらゆる働き（機能）は〝使わなければ衰える〟というルーの大原則です。

では、〝筋肉を使う〟ということについては、現在トレーニングが複雑になりすぎて大原則がおろそかになっていると思います。

筋肉ができることは一つしかありません。それは収縮することです。収縮の仕方はいろいろありますが、とにかく

筋肉の働き＝筋肉を収縮すること

です。

日頃の生活の中で、背中側の筋肉をあまり縮めていない＝衰えているのが腰痛や肩こりの原因の大元です。それ以外にも多くの原因があるとしても、その原因を軽減できます。

〝背中側の筋肉を縮める〟が、腰痛、肩こり、

猫背の予防・改善方法で、具体的な方法はいろいろあります。

一番効果的な方法は、うつ伏せになり、できれば足首を押さえてもらい、全身をそらす運動。その際両脇の腕も持ち上げ、頭も天井を見上げるようにそらすと、背中側全部の筋肉を縮めることになり、首のこり、肩こり、腰痛、そして猫背の予防改善に有効です。

反らした状態で止まらないことと、うつ伏せの状態でリラックスして2呼吸おくことも大切です。回数は、徐々に増やして最終的に50回以上。

それが終わってから、縮めた背中側の筋肉を伸ばすために、前屈の柔軟運動をしてください。筋肉や関節が柔らかくなります。

この運動の原則は背中側の筋肉を縮めること。それさえ守れば方法はいろいろあります。歩くときに、〝みぞおち〟がからだの一番前にあるように歩くのは実践的です。

大腿部の前側の筋肉と上腕の後ろ側の筋肉も衰えやすい筋肉で、年寄りっぽい動作の重要な原因です。

なぜその筋肉が衰えやすいのか、その理由の詳細は割愛しますが、瞬発力にすぐれた筋肉がそれらの筋肉に多くあるからです。

それらの筋肉を鍛える原則も同じ。**それらの筋肉を縮める**こと。具体的な一例は、大腿部の前側の場合は**スクワット**（膝屈伸）、腕の後ろ側なら**腕立て**です。

④有酸素運動

有酸素運動。定義はいろいろありますが、長時間続けることができる運動ということもできます。

いろいろな効果がありますが、一番の効果は、よい血液循環につながること。からだの隅々に酸素や栄養分を送り届けるからだづくりに有効、いいかえれば健康の土台づくりに効果があるということで、現代の健康づくりの王道だと思います。

有酸素運動を実践する基本は、著者の指導経験によれば、まず日頃の生活の中でマメに動くことだと思います。

なるべく効果的、安全に行う方法は、

少し息がはずむ程度の強さ

です。

すこし息がはずむ程度であれば、高血圧の方の血圧が運動中に下がり安全です。

少し息がはずむ程度のジョギングとウオーキングを比較すると、高血圧改善に要する時間が、少し息がはずむ程度のほうが3倍効率がよいとの結果を著者は得ています。

脚やひざに不安のある方は、自転車や水中ウオーキングが安全な方法ですね。

◉まとめ―少し無理する気持ちが大事

現在の日本は、肉体的な活動を機械がやってくれる時代。日本人一人当たりの摂取カロリーの推移から推察すると、１９７５年頃からその傾向が顕在化して、日常生活が楽になってきて、その傾向が今も続いているようです。

楽になりたいのはヒトの常でしょうが、楽になりすぎると弱々しくなってしまうようです。寿命が延びているのに弱々しい高齢者が増えている重要な原因だと思われます。

こういう時代に元気に高齢期を過ごすコツは〝**少し無理をする**〟ことを心がけることが大切です。

少し無理をする気持ちで生活すれば、元気に過ごせるし、おそらく医療費を少なくすることができるし、家族の負担も少なくなる。このことは、誰にもウィン－ウィンだといえるのではないでしょうか。

ふれあいトークサロン

第27回　平成28年7月22日（金）（参加者33名）　■ＯＭＧパートナーズビル 三階 会議室において開催
第28回　平成28年11月11日（金）（参加者32名）　■ＯＭＧパートナーズビル 三階 会議室において開催

〈第27回〉地震保険の歴史と課題

日本損害保険協会シニアフェロー
丸紅セーフネット(株)常勤監査役
栗山　泰史

わが国の損保業界にとって、エポック・メイキングとなる地震が何かを考える場合、４つの地震があるように思える。一つ目は１９２３年の関東大震災、二つ目は１９６４年の新潟地震、三つ目は１９９５年の阪神・淡路大震災、そして四つ目が２０１１年の東日本大震災である。この四つの地震を念頭に置きながら、以下、地震保険に関する歴史を振り返ってみよう。

関東大震災における損保業界の苦難

１９２３年（大正12年）９月１日に発生した関東大震災においてわが国の損保業界は大きな困難に直面することになった。日本損害保険協会70年史によれば、当時38社が火災保険を引き受けており、被害にあった被保険物件の保険金額の総額は13億５７７９万円であったが、地震はそれによって発生した火災を含めて免責であった。ところが、国会をはじめ様々なところで本来は免責であるにも拘らず超法規的に火災保険金を支払うべきとの声が燎原の火のように広がっていったのである。

このような中で、保険会社は保険金ではなく見舞金を支払うことを決定し、政府は助成金として６３５５万円を保険会社に貸付（利率年４分、償還期限50年、据置期間３年）、これに各社の自力での拠出分１１３０万円を加えて、合計で７４８５万円が火災保険契約者に支払われることとなった。当時の損保業界の規模で比較すると、６３５５万円の借金は現在の負担感でいえば7兆円を超える額に相当したと推測できる。

この後、この借入金は一部保険会社の経営を大きく圧迫する要因となり返済軽減の運動が続けられたが認められず、結局、戦後のハイパーインフレに助けられ、借入から30年近くを経た昭和25年3月にようやく返済は完了することとなった。

新潟地震を契機とする地震保険制度の創設

地震保険制度創設に関しては、明治初期から検討が続けられていたが日の目を見ることはなかった。損保協会においても１９６３年に「地震保険専門委員会」を設けて検討していたところ、この最中、１９６４年６月16日に発生したのが新潟地震である。

当時の大蔵大臣田中角栄氏は、地震発生直後の7月13日、保険審議会を開催し、「不時の地震災害に際して国民の生活安定に資するための具体的方策」について諮問した。そして、これを受けた保険審議会では、制度内容に関して審議を重ね、１９６５年1月19日、田中大臣に対して地震保険制度の創設を答申することになった。こうして、１９６６年５月18日に「地震保険に関する法律」が公布、施行され、同年6月1日、ついに地震保険制度が発足することになったのである。

阪神・淡路大震災における普及率の低さ

１９９５年1月17日に発生したのが阪神・淡路大震災である。被害規模をみると、建物の全壊10万５千棟（東日本大震災は10万４千棟）、半壊14万４千棟（同９万８千棟）、一部損壊26万４千棟（同37万６千棟）と東日本大震災に匹敵する規模の大震災である。

それにも拘わらず地震保険による保険金支払いは７８３億円に止まっている。その理由は地震保険の普及率が低かったからである。この時点で、地震保険世帯加入率は全国平均の９・０％に対し兵庫県は２・９％に過ぎなかった。こうした普及率の低迷を前にして、改めて損保業界としては襟を正すことの必要性を強く認識することになった。

これを受けた保険内容の改定や普及拡大への取り組みに加え、阪神・淡路大震災によって国民の地震保険への関心が大きく高まったことで、その後、普及率は拡大していく。全国ベースでの世帯加入率は、阪神・淡路大震災発生時に９％であったが、東日本大震災発生時には23・７％（宮城県32・５％、岩手県12・３％、福島県14・１％）となり、２０１４年末では28・８％にまで伸びている。

２０１６年４月に発生した熊本地震において、地震保険の保険金支払いは３０００億円を大きく超える見込みである（９月30日現在、２３６千件、３６２１億円）。これも震源地である熊本県の世帯加入率が28・５％、大分県が22・１％（２０１４年度末）に及んでいることによるものである。

東日本大震災における地震保険への評価

２０１１年3月11日、東日本大震災が発生した。この地震での地震保険金の支払総額は１兆３０６１億円に及んでいる。損保業界では、航空写真による津波の全損地域の認定、専用回線を設置したコールセンターでの相談対応、津波や液状化による被害に関する実際の損害状況に合わせた査定処理、原発事故で損害調査に滞りが生じた福島での特例措置等、従来にない対応を臨機応変に実行した。

損保各社は、損保協会を中心に適切に協調する一方で、親切かつ迅速に保険金を支払うという点でしっかりと競争し、さらに保険代理店の避難所等におけるきめ細かな活躍が絡み合って、１９６６年の創設以降初めて地震保険は世の中から一定の評価を得ることになった。

東日本大震災を踏まえた地震保険の課題

東日本大震災によって浮き彫りになった課題がある。以下ではこの点について述べてみ

●**栗山　泰史**（くりやま　やすし）
1975年京都大学法学部卒業後、安田火災海上保険入社。合併後、損害保険ジャパン常務執行役員を経て、2009年、日本損害保険協会常務理事。2011年の東日本大震災時には中央対策本部事務局長を務めた。現職は、日本損害保険協会シニアフェロー、日本損害保険代理業協会アドバイザー、丸紅セーフネット㈱常勤監査役。

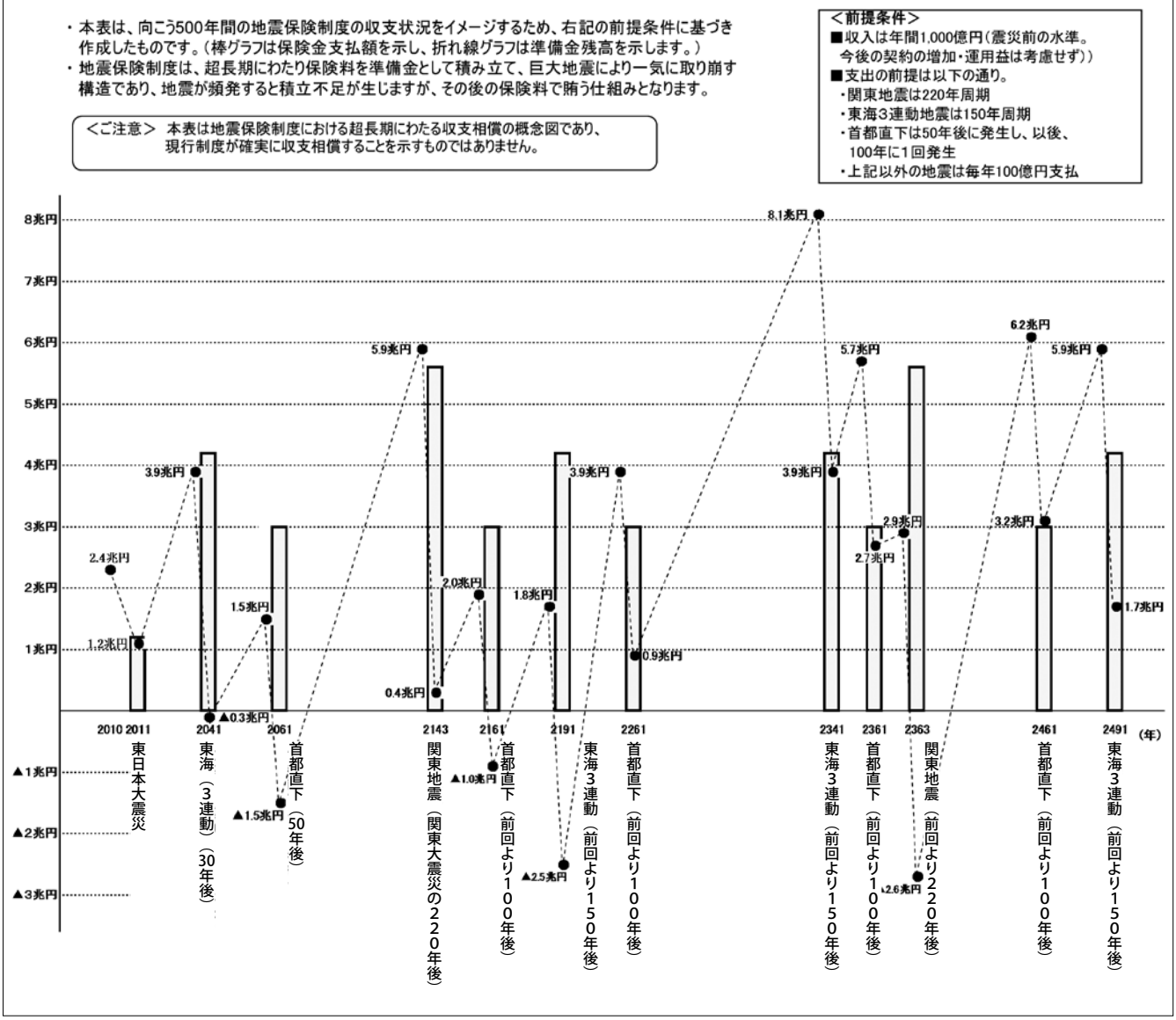
たい。

①保険料の引き上げ

地震保険の契約者が支払う保険料は、一定額が保険会社に蓄積される一方で、残りは再保険（保険会社が付ける保険）の保険料として保険会社から国に支払われ、国はそれを地震保険特別会計に蓄積し続ける。地震発生の際、保険会社と国はそれぞれの蓄積分から、予め定められた責任分担額を支出する。責任分担において、保険会社分は蓄積している額以下になるよう定められ、政府分については、蓄積している額では足りない場合、いったん国の一般会計（税金）から借り入れる。そして、借り入れた分は、その後に入って来る地震保険料によって返済される。つまり、地震保険は長い時間軸の中で契約者が支払う保険料のみを原資として成り立つ制度で、税金の投入は暫定的にしか行われない。（下図を参照）

これが持続可能で契約者からの信頼が得られるものにするために、損保業界では、最大限の科学的なアプローチを取り入れている。まず、政府の地震調査研究推進本部が作成する「確率論的地震動予測地図」に基づき95万の地震モデルを設ける。そして、国土を２５０ｍ四方に区切り（２５０ｍメッシュ）、

地震保険のメカニズム



当該区画に対して地震モデル一つ一つが与える損害の総額を把握した上で料率計算が行われる。

東日本大震災においては「想定外」という言葉がしばしば語られ、結果、「確率論的地震動予測地図」は二度にわたって大きく見直されることになった。これをベースに、地震保険料率は、２０１４年７月に15・５％引き上げられ、さらに２０１７年１月１日以降、激変緩和の観点から三段階に分けて19％の引き上げが予定されている。保険料の引き上げの中で地震保険の啓発に努めて普及を拡大すること、これは地震保険において困難であるが重要な課題である。

②リスク区分の細分化

地震だけではなく津波と噴火を併せて担保する地震保険から津波を分離して「津波保険」を作るべきという考え方がある。すなわち、津波は明確に沿岸部に限定されたリスクであるから、地震保険の枠内で一律に担保すると保険契約者間の公平が保てないというのである。耐震設計の建物を割引くというのも同じ考え方である。リスクの細分化によって契約者の有するリスクと保険料負担の間のリンケージを強めるべきという考え方に基づいている。

この点に関し、財務省が設置した「地震保険制度に関するプロジェクトチーム」が２０１２年11月30日付で公表した報告書では次のように述べている。

『地震保険は、「保険」としての側面と「連帯」としての側面を併せ持っている。（中略）リスクをそのまま保険料率に反映させると、リスクの高い地域に居住せざるを得ない人々を地震保険から排除することにもなりかねず、「連帯」の観点からは、社会全体でリスクを分担することが必要となってくる。地震保険の制度設計にあたっては、いずれかに偏ることなく、「保険」、「連帯」双方のバランスをとることが重要である。』

リスクの実態に応じて誰かの保険料を下げる時、それに見合う額、誰かの保険料を上げることが必要になる。重要な点は、どこまでの格差を容認するかということである。「保険」と「連帯」のバランスを図ることは決して失われてはならない重要な視点である。

講演風景

最後に

財務省の「地震保険制度に関するプロジェクトチーム」である人が次のように発言している。

「科学に限界があるということだと思うが、地震保険は、他の制度に比べるとはるかに極めて科学的で、客観的なデータに基づいて構築されている制度である。地震保険制度は、人間の知見には限界はあるものの、できる範囲でその科学に基づいて地震保険料や損害区分の議論ができる極めてすぐれたものではないかと考えている」

まさに、地震保険について正鵠を射た発言である。多くの課題があるものの、これらを一つ一つ丁寧に乗り切って地震保険をよりよいものにし、一層の普及を図ることが求められるのである。

〈第28回〉

日本経済の実像

日本産業退職者協会　前会長　山本　恵朗

本日は、専門家でもない一会員として、私が日頃感じている日本経済の現状を、７つのキーワードに分けてお話ししていきたいと思います。

１．人口減と経済成長

まず人口の問題ですが、ご存知のように日本は少子高齢化が進んでいます。いよいよ労働人口が減少する時代に入ってきました。

食糧生産量が増加すればそれに伴い人口も増加するのが人類の歴史ですが、近年そうでもなくなってきています。特に先進国において所得が増えれば増える程人口増の割合が減ってくる、という傾向がみられます。一つの国の中でみても、所得が多く高学歴の層ほど子供を産む割合が減るという傾向が顕著に出ています。日本国内でもこれは深刻な問題でして、現在子供の数（16歳未満）が１６０５万人で、１年前と比べて12万人減っています。この傾向はここ数年ずっと変わりません。それに比べ65歳以上の高齢者は、１９９４年に全人口の14％を占めていましたが、２００７年に21％、２０１５年26・７％と、既に全人口の四分の一が６５歳以上となりました。

次に労働人口、いわゆる現役世代（15～64歳）と高齢者の割合を見てみますと、２０１３年が２・５：１。よく「老人１人を３人の若者が支える」と言いますが、もはや２・５人で１人を支える時代です。これが２０３０年には１・５：１になると予想されます。

このように人口減という問題があるので、今後の経済成長は難しいという悲観論があります。経営者に多い考え方だと思います。この考え方は、「これからの時代は人口が減っていき経済成長もままならなくなるから積極的な投資なんてできないよ」という言い訳に聞こえてしまうのですね。

でも私は、人口問題だけを理由にするのは違うと思います。それは、高度成長期における実質ＧＤＰと労働人口数の伸びを比較したデータを見ていただければご理解いただけます。

１９５５年から１９７０年にかけての、日本の実質ＧＤＰの伸び率は９・６％です。それに比べその期間の労働人口の増加率は、僅か１・３％なのです。つまり、働く現役世代の人数は１・３％しか増えていないのに経済は９・６％も成長している、といえます。この傾向はバブル期も同様で、１９７５年から１９９０年にかけての比較は、実質ＧＤＰ伸び率が４・６％に対し、労働人口の増加率は１・２％に留まります。ですから、労働人口が増えないことだけを取り上げて低成長の言い訳にはできないのではないかと考えます。

では、「何が問題か?」と問われると、その答えは「イノベーション（技術革新）」にあると言わざるを得ません。かつて日本は、農業中心の経済から工業化を進め、公共投資などによりインフラを整備し、国全体として

●**山本恵朗**（やまもと・よしろう）
前日本産業退職者協会会長。1936年（昭和11年）３月生まれ。長野県塩尻市出身。
東京大学経済学部卒。1996年（平成８年）富士銀行頭取就任。みずほホールディングス会長、全国銀行協会会長など歴任。

成長してきました。こういった、諸々全ての要素を組み合わせることにより経済成長は実現できるのです。

ところが現在の日本は、アベノミクスの「3つの矢」をもって景気刺激策を講じているのですが、今のところ期待通りの効果が出ているとは言い難い状況です。先のG7サミットでは、安倍首相だけが財政金融を総動員して景気を刺激しなければならない、と発言していたのに対し、独メルケル首相を始めとする他の国々の首脳は、「今求められているのは構造改革だ。構造改革を行って潜在成長率を上げていかないと、目先の景気対策では成長は実現できない」と、主張が食い違っていました。当時の欧州各国は財政動員をやるところまでやってしまっていたので、そのようなやり取りになったのだと思いますが。何れにせよ、潜在成長率に焦点を当てていこうというのが世の中の主流の考えになっています。「3本の矢」の3本目、構造改革にいよいよ本気で取り組まないと大変なことになる状況です。

2. 財政赤字

もうひとつは財政の問題です。かつて「社会保障と財政の一体改革」を自民党、公明党、民主党（現 民進党）3党で合意しましたが、その後株価が上昇し、あたかも景気が回復したような錯覚に陥り、一体改革はどこかに隠れてしまいましたね。

それではまず今の財政がどういう状況かということを押さえておきましょう。

今、GDPが約500兆円です。国の債務1000兆円、一般予算規模100兆円。このうち社会保障給付に着目すると、2015年の給付総額が116兆円、内訳は老齢年金が56兆円、医療給付が37兆円、介護10兆円、子育て関連が5兆円。大まかではありますがこんな感じです。これに対し、収入をみると、まず保険料からは65兆円。皆様の厚生年金や国民年金保険料、健康保険料、介護保険料等の収入額です。そして税金から45兆円。つまり保険料収入では6割しか賄えず、足りない4割は税金を投入しているのです。

ここで皆様に今一度確認いただきたいのは、老齢年金の仕組みについてです。一般にそれは2通りの方式があり、1つは「積み立て方式」2つ目は「賦課方式」です。積み立て方式は、読んで字の如く自分が働いている間に年金保険料を支払い、これを積み立てていって老後に年金として受け取る。長期の貯金ですね。これに対し賦課方式は、現在現役世代が支払っている年金保険料を、そのまま今の老年世代が受け取る、つまり自分の親世代が受け取っている年金を支払って、自分が老後を迎えたときはその時の現役世代が支払う保険料を老齢年金として受け取る仕組みです。

そして日本の年金は「賦課方式」です。ですから今のように少子高齢化が進むと当然、支払う現役世代と受け取る側の老年世代のバランスが崩れ、支払う保険料を値上げするか、生涯年金受給額を減らすか、その両方を同時に行うか、どれかを実行しないと制度自体が成り立たなくなってしまいます。

もう一つの問題は、国民年金保険料の未納率が増加している点です。経済上支払えない人は減免処置や支払い猶予等を受けているわけですが、こういった方々を除いた表面上の納付率でさえ63%しかないのです。6割の人しか支払っていないのです。減免や支払い猶予等の処置を受けている人を含めた実質納付率は何と4割になってしまいます。勿論保険料を支払わなければ老齢年金は受け取れないのですが、「そうなったら生活保護を受ければいいや」と考えている人もいるかもしれま

せん。

医療費は、国民皆保険の下で、高齢化、医療の高度化が費用の急増をもたらしています。実態はご存知のとおりです。

介護保険も、収入である介護保険料（40歳以上の人は全員加入が義務づけられています）が、支出の4割しか賄えていません。先ほど述べた通り、足りない分は税金で補てんしています。

これらの問題に関して、では他国はどうなっているのか?

「各国のGDPに対する社会保険給付率」というデータを見てみます（図1）。

図1　各国のGDPに対する社会保険給付率

（単位：%）

	日　本	米　国	ドイツ	フランス
老齢年金	11	7.6	11.4	14.4
医療給付	7.2	8.5	8.6	9
その他	4.9	3.4	9	9
合　計	23.1	19.5	29	32.4

日本の国民負担率は、先進国の中で低いと言われていますが、給付率を比較すると、日本は欧州諸国より少なくて米国より多い、「中福祉、低負担」であるといえます。

このように社会保険の問題は深いわけでありますが、何れにしましても、毎年国の予算に対し35%程の赤字が積み上がり、国の債務の総額が1000兆円を超えている国に長期の投資をしようと思いますか? 外国であれば私はしたくないですね。日本人ですからそう言いながらも個人国債を買っていますけれども（笑）。

こうやって今の財政状況を見てみますと、日本は近い将来「中福祉、高負担」の時代を乗り越えなければならないのかなと考えます。

3. 金融政策

次に、財政と関連性の高い金融政策の問題について述べます。

今年の9月21日に、日銀は「異次元の金融緩和政策」の総括的な検証を行いました。それによるとこの金融緩和政策は、長期国債は元よりETF（上場株式投信）やJ-REIT（不動産投信）といったリスク資産の買い入れの増加、マイナス金利への誘導、イールドカーブのコントロールなど、従来は批判されていたようなオペレーションを行っています。これに対し、元日銀副総裁である西村清彦東京大学教授は、「今の金融政策は政策飽和の状態で、効果が出なくなっています」と言っています。日銀が政策金利を上げ下げして景気を刺激したり引き締めたりするというコントロールが効かなくなってきたということです。これは日本に限らず世界的に言われていることです。

今までは、金利を下げれば企業は積極的に設備投資をして景気が上向いたのですが、今は金利が下がったからといって設備投資はしません。そうなると、当然企業の内部留保は厚くなっていくのですが、それに対し政府は、「従業員の給与で吐き出しなさい」と、まるで労働組合みたいな発言をしています。経営者はどうするかといいますと、先日の新聞にこんな記事が載っていました。「6兆円の株主還元」。余剰金を従業員には還元せず、配当と自社株買いというかたちで株主に払っているのです。それがグローバルに競争する今の経営者の姿勢なのです。結果として投資にはまわらないので金融政策の効果は出にくいのです。この状態を西村教授は「政策飽和」という言葉で表わしているのです。

4. 潜在成長率

今、政府は農業の生産性を上げようとして農協改革など色々な農業改革を行おうとして

います。

例えば日本と韓国を比較した場合、まず肥料代が、日本は韓国に比べ約1・93倍です。農薬が約2・8倍、作物の種が1・3倍、農機具に至っては4・6倍にもなります。労働費（人件費）は約1・2倍です。これだけ生産コストが高いと競争になりません。

それから「働き方」もよく議論されます。日本人はマネジメントが下手だから長時間働く割には生産性が低いと、よく海外から指摘されます。この問題は、経営側が長時間労働を強制的にコントロールして、能率を上げる工夫をしていくしかないのかなと思います。

一番効果があるのは、やはり技術革新でしょうね。「全要素生産性（Total Factor Productivity - TFP）」という言葉があります。全ての要素を合わせた生産性を上げようという考え方です。日本では未だ本格的な取り組みがなされていないように思います。例えば、道路、上下水道などインフラの経年劣化とか、地球環境問題にかかるコストなどは国全体の生産性を考える上で大きなマイナス要素ですね。これらを改善するのに大きなコストがかかります。

講演風景

一方、日本政府はエネルギー政策等具体性に乏しく、後手に回ってしまっている感があります。このあたりの分野の、国としての方向性がカチッと定まれば、人口減となってもまだまだ成長率は期待できます。

ＩＰＳ細胞など日本の技術は大きな種を持っていますが、企業がそういった遠い将来に向けての積極的な投資を行わず、「現在価値」すなわち株価や企業の格付けにしか目がいかないようでは、国がいくら金融緩和政策で煽っても期待薄ですね。

5．中小企業

日本は中小企業の数がとても多い。だからここの生産性を上げれば全体も上がる。ところが今、中小企業の後継者問題がクローズアップされていて、生産性の向上どころではありません。多くの企業が今、世代交代の時期に差し掛かっていますが、後継者が決まっている会社は5割に満たないといいます。また、長らく不況のあおりで受注先からの値引き圧力など、経営が難しくなっています。

中小企業は弱者だから救済すべきだという世論の下で、これは、資金を供給している金融機関がどうするこうするという問題ではなく、国全体としてどう解決していくか、その国民的合意が必要な気がしています。

6．格差

格差問題の中で、日本で今一番話題になっているのは、「正規雇用、非正規雇用」の問題ですね。

非正規という言葉を聞くと、何だかモグリの契約みたいな感じに思ってしまいますよね。これは非常に良くないことです。

私の知っている会社では、社員は全員が正規雇用です。その中でいくつかのグループに分かれていて、1つは全国どこでも転勤あり。2つ目のグループは自宅から通える範囲でしか異動が無い。

3つ目は、更に労働時間が短く、早番遅番みたいに選べるようになっています。それぞ

れのグループは、給与もそれに見合った配分となっています。そこでは、当たり前ですが、正規、非正規の格差問題は起こりません。

それから女性の雇用問題ですが、統計的に、女性が参加しているとそのチームは生産性が上がるというデータもあるのです。

格差の問題を考える上でキーワードは「機会均等」と「インセンティブ」であると思います。やはり人間ですから、やってもやらなくても同じ給与というよりは、インセンティブがあったほうがやる気が出るのが本音であると思います。結果としての格差は所得の再分配で対応し、「機会の均等」と適正な「インセンティブ」で個人の力を発揮させる社会とすべきです

7．グローバル化

グローバル化という観点で振り返ると、今年の大きな話題のひとつになったのは、英国のＥＵ離脱です。これはまた民主主義制度の根幹にかかわるポピュリズムという政治問題を顕在化させました。

もうひとつ話題になったのは、ＩＴ企業のアップルが巨額の課税逃れをしていたという話です。

アイルランドにある海外子会社を利用して巨額の利益を米国から移転したのは実質的に脱税であると指摘されました。

このように巨大な多国籍企業が色々な国に展開することによって、税負担を非常に少なく抑えている。小さな国をタックスヘイブン（租税回避地）として利用し、本来払うべき本国への税金の支払いを不当に逃れている行為が、税の不公平を招いている点で問題視されています。しかもその額はとてつもなく巨額になっきています。

今年前半に話題になった、「パナマ文書」も同様の問題ですね。

このように、経済のグローバル化というのは事実が先行していって、後から政治問題化しているのです。ＴＰＰとも深く絡んでいる話ですが、貿易の自由化というのは当事国にとってプラスであるのは事実です。しかしながら、同時に格差が生まれているのもこれまた事実であります。モノ、サービスの自由化だけならまだしも、カネやヒトの自由化となると、ユーロや難民のように難しい問題があります。

時代は大きくグローバル化に傾斜していましたが、難民問題、Brexit、11月の米国大統領選挙で流れは急激に変わりました。それまでのグローバル化の流れから、ポピュリズムを背景に偏狭なナショナリズム、保護主義が台頭してくるようになりました。

一方で、環境問題も企業のグローバル化に合わせて議論されてきていました。脱炭素等、環境の保全を図るコストを誰が負担するのか？グローバル企業がそれぞれ展開している地域で何をどれ位負担するのか？地球全体にとって一番重要な議論になるでしょうね。

しかしながら、日本ではそのあたりの議論が非常に遅れていると感じます。

欧州に旅行すると、至るところに風力発電用の風車が立っています。沢山立っているのでそれが当たり前の風景になっています。でも日本ではあまり見かけません。

何れにせよ、環境問題を置き去りにして経済のグローバル化を優先させるというのは、これはもう、政府の怠慢と言わざるを得ません。

今年から来年へと大きく時代は動いていきます。これからの日本人に大いに期待したいですね。

本日はご清聴誠にありがとうございました。

（抄録 山田雅彦）

順風満帆
シニア向けサロン

社会貢献活動委員会　山鹿　素雄

「きたざわサロン」は、皆様方の暖かいお力添えもあって順風に活動が行われており、それなりに評価されていると思います。その一方で、参加している方々の想いはどうか、という事で平成28年3月の集いで懇談の場を持ち、意見を聞かせて頂きました。限られた時間ですのですべてを聞いたわけではありませんが、結果は全員が楽しい会であると答え、中には〝最優先して出席する〟という人もおられました。それをさらに分類してみますと、〝皆で歌を歌うのが楽しい〟、〝身体を動かすのが楽しい〟、〝輪投げが楽しい〟、〝フラダンスが楽しい〟、〝手を動かす事が好きです〟、〝折り鶴は難しかったが良かった〟、等々多岐にわたっていますが、キーワードは〝自分参加型〟となりましょうか。又普段は全くない写真を撮ってもらえる事、出欠と状態の確認の為に毎月行っている電話がうれしい、等があります。

これ等を考えて見ますと、日常的にあまりやってない事、或いは人と人とのコンタクトが少ない人がこの会に参加する事によって満たされると言えるかもしれません。普段、あまり付き合いの無い人達がここに来ると人との接触があり、利害関係の無い付き合いで新しい発見なり生き甲斐を感じたり、昔を思い出したりしているのではないでしょうか。このあたりを考察しながら、さらに新しい試みを入れて充実した活動をしていきたいと思います。

「かがやきサロン杉並」も順調です。そして「きたざわサロン」の12月の催しは、〝フォトフレームに飾りつけ〟をするものですが、これは昨年の「かがやきサロン杉並」の催しで行ったもので、このように交流が始まっています。今後とも両者への御協力をお願いいたします。

昨年は熊本地震があり、皆様方に義捐金をお願いいたしましたが、9月26日に熊本県東京事務所に20万円を持参しました。ご協力有難うございました。尚5月25日には理事有志で集めた5万円を持参した事も併せてご報告いたします。

又昨秋お願いしたバザーの献品は、短期間のお願いでしたが、7人から96品を送って頂きました。本年もよろしくお願いいたします。

こまめに送って頂いている使用済み切手は先方の報告によりますと２０１５年分は全体で２４６７万円になったようです。当協会の分がいくらになったかはわかりませんが、日本全国となると大変な金額になりますね。これらのお金は、アジア・アフリカ地域の保健医療レベルの向上に寄与している事を念頭に入れて、今後ともよろしくお願いいたします。

ペットボトルキャップも順調に集まっており、昨年分は9月現在１３２・73kgとなりました。有難うございます。

「かがやきサロン杉並」2016年の活動報告

サポーター代表　満田　将太

東京都杉並区西荻窪で開催している多世代交流サロン「かがやきサロン杉並」では、参加型のコンサートの開催と仲間づくり、生活情報交換を活動の軸とし、2016年は1月、8月を除く10回開催し、2016年12月の会で28回目の開催となりました。1年間の演目を紹介させていただきます。

■より地域の絆を感じた1年

開催場所を駅前のジャズレストランから現在のかがやき亭に変更してから1年が経過し、より地域と絆を感じた1年となりました。近隣の商店街のお店などにもチラシを置いてもらったり、1度来ていただいた方が、近くのお友達を誘って参加してもらったりと広がりを感じました。さらに2016年10月には、参加者の方でこの企画を自身の住んでいる地域でもやりたいということで練馬区の石神井公園で「ねりまシニアサロン」（年4回開催）もスタートしました。

9月　蕎麦のうんちく＆打ち立て試食会

11月　踊る証券マンによるフラメンコ

7月　フルートとピアノのクラシックステージ

4月　そばうち有段者のオソバリオリンリスト

6月　ツボを使ったセルフケアとタオル体操

■今後の展望

かがやきサロン杉並は2017年4月3周年を迎えます。より多くの地域の参加者に参加してもらえるように、「楽しい音楽」と「お役立ち情報」を軸にし、近隣の商店などとも連携を取り、地域デビューのきっかけの場所となるようにしていきます。

★開催概要

開催場所：かがやき亭
アクセス：JR西荻窪駅から徒歩7分
　又はバスで西荻窪北4丁目より徒歩2分
住　　所：東京都杉並区西荻北4丁目4－4
開 催 日：毎月第1土曜日15時～17時
　（1月、8月は休み）
参 加 費：1000円・お茶菓子付き（17時より交流会・別途500円／お酒あり）
プログラム：コンサート、合唱、生カラオケ、お役立ち情報等の紹介、健康体操など
HP：http://suginami-salon.com

「かがやきサロン杉並」では、参加者だけでなく、お手伝いしてくださるボランティアの方の募集もしています。

〈個人会員親睦会〉
「はつらつふれあいの集い」

湯藤新理事長のご挨拶

本催しは主に関東地区にお住まいの方（当協会の個人会員はもとより、当協会の理念にご賛同頂いた非会員の方も含む）を対象に会員相互の交流、親睦を目的として年一回、協会が行う主要行事の一つです。

梅雨の晴れ間の一日、七月十一日（月）、例年どおり、日暮里のホテル・ラングウッドにて約百五十名の参加を得て開催されました。会場入口に、協会のサークル活動のパネルが掲示され、協会活動の一端を御来会の皆様には御理解頂けたのではと思っています。

定刻、山鹿協会顧問の総合司会で開幕。協会の役員人事は六月の理事会以降、新体制になりました。

細江事務局長の開会の辞に引き続き、湯藤新理事長の新任の挨拶を兼ねた開会のごあいさつ。役員の紹介に続き、恒例の新入会員の勢揃い。関根新副会長のご発声で一同互いの健康、再会を祝し乾盃後、食事とアトラクションの時間に。テーブルのホテル心尽しの中華料理を味わい、団欒（ラン）に花が咲く。

アトラクションはシャンソン、演歌、南米音楽と多彩な催しが用意され、皆様には、食事を楽しみ、歓談しながら舞台をお楽しみ頂けたのではと思います。松岡けい子さんのシャンソン、仲町浩二さんの演歌の熱唱に大いに堪能されたと思いますが、ロス・パパガジョスの皆様による南米音楽の演奏に会場、舞台一体となり今日一番の盛り上りをみせたのでは。更に仲町浩二さんが歌う「東京音頭」に、会場の皆様が手拍子で参加され大いに盛り上りました。「東京音頭」の余韻が未だ残っている会場では、本日のイベントに協賛して頂いた宮崎県東京事務所様をはじめとして別表の会社様の紹介と同時に本催しのお楽しみである恒例の「くじびき大会」。

宮崎牛のサーロインをはじめとして日本酒、焼酎、南高梅、リンゴ黒酢、カレーセット、美術館入場券、書籍等々の多種多様な景品が

関根副会長の乾盃の音頭

パーティ用のビール提供
アサヒビール株式会社
景品の提供
神楽酒造株式会社／霧島酒造株式会社／坂元醸造株式会社／損害保険ジャパン日本興亜株式会社／宝ホールディングス株式会社／丸大食品株式会社／株式会社ミツウロコグループホールディングス／宮崎県東京事務所／株式会社グリーンホスピタリティーマネジメント

用意され、大多数の皆様に御満足頂けたのではと思っています。素晴らしい賞品の御提供先に対し、本紙面を借りまして厚く御礼申しあげます。

にぎやかな抽選後、昨年に引き続き「スクラッチくじ」を皆様に引いて頂きました。今年も前年と同様大当りはありませんでしたが、若しかしたらというドキドキ感は味わって頂けたのではないでしょうか。

会の最後は、全員で「花は咲く」、「協会の歌」を斉唱。田林専務理事の閉会の辞でお開き。

皆様、来年もまた元気でお会いしましょう。

協会は社会貢献活動の一環として取組んでいる認知症予防のための「きたざわサロン」（世田谷区北沢地区の老人を対象としたサロン）及び鎌倉にあるダウン症児訓練施設（虹の子会）のバザー等を支援しています。

会場のコーナーに例年と同じく「きたざわサロン」の女性スタッフによる手作り小物、「虹の子会」の子供たちの作品の夫々の展示即売会を設け、皆様のご理解を頂き完売することができました。ご後援ありがとうございました。

「健康が続くかぎり来年もまた是非参加したい。年一回の楽しみですから」との出席者の言葉に励まされて、関係者一同、益々この会を皆様の交流、親睦の場になることをモットーに頑張っていきたいと思っています。

（文責／藤﨑大四郎）

松岡けい子さん

仲町浩二さん

新入会員紹介

手拍子参加

ロス・パパガジョスの皆様

くじびき大会の様子

マチュリティ談話室

春夏秋冬楽しめるキノコ

広島支部　川上嘉章

秋はキノコのシーズンです。でもキノコシーズンは秋だけだと思う人が多いですがそれは間違いで、実は一年中、野生きのこを楽しむことができます。

桜が咲く春、種類は少ないですが発生するキノコはあります。しかもアミガサタケの仲間は、この春の三月下旬～四月上旬の時期にしか発生しません。ヨーロッパでは「モレーユ」と呼ばれフランス料理では高級食材になっています。日本では見向きもされないですが。畑地や道端や家の庭などに発生しますが、この時期にキノコを探す人はほとんどいないので発生していても気づかれずに腐っていってます。生食すると中毒するのでしっかり湯掻けば食べることができます。

同じく春の四月下旬～五月上旬には、ウメの樹の樹下にウメハルシメジが発生してきます。どうしてもウメの実のほうが気になってしまうので樹の下の方を見ることもないのでしょう。発生していても気づかれないことが多いようです。

梅雨時から梅雨明けにかけては、秋に劣らずたくさんのキノコが発生してきます。1年間の中でキノコ発生のピークは、この時期と秋と年二回です。ヤマドリタケモドキはヨーロッパでは「ポルチーニ」と呼ばれる人気の高いキノコの一種ですが、七月上旬～中旬に発生します。でもこの時期のキノコは気温や湿度が高いため傷みやすく、なかなか新鮮できれいなキノコに遭遇することがありません。真っ赤でいかにも毒々しい色のタマゴタケ（食用）もこの時期です。「美しいものには毒がある」と言いますが、キノコには当てはまらないことがあります。

秋のマツタケ、コウタケ、ホンシメジなどはよく知られているのでここでは省かせていただきます。

冬の代表的なキノコにWinter Mushroomと呼ばれるエノキタケがあります。スーパーで売られるエノキタケは、実はもやし栽培されたキノコなので、柄がひょろ長く二～三ミリの傘がついているだけです。野生のエノキタケの傘は二～八センチもあり、柄の直径も二～八ミリあり表面に黒っぽい短毛が密生していてグロテスクです。〝こうぞなば〟〝かきのきなば〟という別名もありコウゾやカキキによく発生します。

京都に行く

京葉会　高原　寛

九月の終わりごろ京都に行った。洛北一番北の方で、鷹峰という山のあたり。その上の方にある光悦寺・源光庵・常照寺を訪ねた。光悦寺は本阿弥光悦の建てたもので、墓もある。丁度萩の咲いてるのに人もいず、ひっそりしていて、なんとなく穏やかな気持ちになる。受付の人に「いいお庭ですね」と言って帰る。源光庵はＪＲ東海の「そうだ京

都に行こう」に出てくる「悟りの窓」がある。「迷いの窓」も見て、うーんとため息。常照寺は吉野大夫が寄贈した吉野門があり、今だったらいくらぐらいかなと思う。

翌日は有名な大徳寺へ。とにかく広い。雨模様なので二十くらいある塔頭のうち、一つか二つとして、行きあたりばったりで、大仙院を見る。案内の人が大変親切で庭のありさま、建物の説明、また沢庵和尚が住職だったこと、秀吉も同じ庭を見たというお話も。「気は長く、心はまるく、腹立てず、人はおおきく、己は小さく」の教えをうける。この日は利休の月命日というので利休忌といってお茶会があるらしく、着物の女性が石畳を歩いている。そのうち雨で四条河原町までバスに乗る。

雨が強くなったので、高島屋の食堂で昼食をして帰ることとしたが、行き方がわからず四条大宮まで歩く。同じ四条なので近いかと思っていたが、結構な距離、バス停で待てど暮らせど来ない。聞いて見ると、金閣寺より上の方なんか行かないという。しかたないので戻って地下鉄で這う這うの体で帰る。

京都といえば、二年ぐらいまえに錦市場のそばに錦天満宮があり、そこであろうことか「お金が儲かりますよう」とお願いしました。そのころ何が一番大事か　お金だとして、どの神社・お寺に行っても「お金が儲かりますよう」としていました。錦でお願いして通りで宝くじを十枚買いました。当たりましたね三百円。それからこれはいけないと、「家内安全」とか「健康第一」にして代わりばんこにお願いしています。

とにかく京都では雨に会います。それもどしゃぶり。御所で降られ、こりずに銀閣寺でも。そのあと桂離宮・修学院離宮に行きました。

このごろはもっぱら下町歩きです。門前仲町いいですね。永代通りを渡って行くと牡丹町から古石場へ。古石場には文化センターがあって、小津安二郎の展示がありました。江東区は今なんとなく勢いがあります。オリンピックとか豊洲市場のせい？

深川不動の門前にある伊勢屋の豆大福はおいしい。行くたびに買います。このあたりは木場があるせいか水べや川がいたるところある、小津を記念して小津橋があり、親水公園。おいしいものも沢山あるので、しばらく何回も行きそうです。

旅はトラブルといいますが、網棚に荷物を忘れたり迷子になったり、ほうほうの態で帰りますが、忘れるとまた行こうとなります。

試練を乗り越えて

西東京会　谷合幸江

今から25年前のことです。当時私は東戸塚に住んでおりました。たまたま長女の嫁ぎ先の父親が輸入商社を経営しており、そこから宝石を仕入れて宝石販売の仕事でも始めたいなと考えておりましたところ、友人から誕生石などあれば見せて欲しいと頼まれ、私は快く引き受けてこれを機会にと前日より用意した代金を支払って高価な宝石数点を買い入れ、友人の住む八王子に向かいました。ふと気がつくと大事な持物を電車の中に置いてきてしまったことに気付き、即戻りましたが見つかりませんでした。東戸塚駅に紛失届を出し、会社にたどり着いたところへ専務の奥様が来られ、委細ご報告すると、「それって娘さんの命と引き換えだったのかもよ」と言われ、私は声も出ませんでした。実はその日の朝、娘がいなくなった夢を見ていたので

す。専務の奥様は卓越した霊感をお持ちの方との評判で私の話を聞いて頂き、気持ちを分かって下さったので少し平常心を取り戻しました。

このことがあった翌年に東小金井に自宅が完成しました。そこから通える範囲で働くこととし、店員の仕事やハウジング会社での販促など厳しい経験も致しました。この会社に勤務していた30代の女性が退職して後一年ほど経ってから突然連絡があり、父親が経営している会社で働いて欲しいと頼まれました。僅かな期間ご一緒しただけなのに私のことを気に留めてくださっていたのです。そして私はそこで働くことになりおよそ6年間、営業成績も常に上位を記録しました。しかしここも会社の移転に伴い辞めざるを得なくなりました。偶々同僚の一人が家庭料理のお店を始めたいとのことで、空き店舗探しに協力したりして、小平にお店を開きました。一年後、そのお店の隣にあったリフォーム会社のご主人が体調不良で突然辞めることになり、私の方に会社を継承しないかとのお話が持ち込まれました。相談の結果、次男が経営に当たり、私も手伝うこととなって、平成19年に新会社に移行し、お蔭様で経営も順調に推移して現在に至っております。

あれからの25年間を振り返るとき、山あり谷ありでした。宝石を拾った人はどんな人だったのだろうとふと思うこともありますが、こうして健康な日々を頂き、試練を乗り越えその都度人様に助けられながら今日の会社にたどり着いたことに気付かされました。心からの感謝の気持ちでこれからも前進して参ります。

私の生涯最大の体験

広島支部　久田耕路

私は昭和十三年生まれの当年七十八才である。余生とは言えまだ人生を前向きに捉え後を振り返りたくない心境であるが、一方でそろそろ自分史を断片的にでも記録しておきたい気持ちが強くなって来た。そこで今回は「私の生涯最大の体験」と言うテーマで書きたいと思い我が人生を振り返ってみた。人生を青少年期、成人期、老年期の三つに区分して体験したことを思い出してみたが、いずれの期においても何度か悪夢のような体験をしたが、これらは人生の一瞬の悪夢のようなことで最大の体験ではなかったような気がします。それでは体験した多種多様なものの中で何が生涯での最大かを辿った結果、成人期に私にとって大きな体験で他人がなかなか体験し得ないものがあったのでご紹介したい。

一．当時の状況

それは一九八一年（昭和五十六年の体験だったのか、あれこれと記憶）のことでした。何しろ三十五年前のことですからセピア色の記憶の断片を繋ぎ合わせて辿るような感じですが、当時の日本及び世界は一九七三年（昭和四十八年）の第一次オイルショックに続く一九七九年（昭和五十四年）イラン革命による中東情勢緊迫化と再度の石油需給の逼迫と石油価格の高騰による第二次石油危機に見舞われた。そのため東南アジア、特にマレーシア及びブルネイでも三菱商事、三菱重工のチームを組み石油関係の市場調査と機器装置の販売促進のため私もその一員として当該地域に派遣されることとなった。

二．体験の内容

出張は四泊五日の旅程で羽田空港からＪＡＬ便で出発し、シンガポール経由マレーシア、クアラルンプール空港に到着した。ここまで

は順調な空の旅でした。一日目はクアラルンプールでマレーシア、ブルネイ地域での石油開発関係の情報収集を行ない、二日目はクアラルンプール空港からＭＡＳ（マレーシア航空）便でブルネイのミリ空港へ飛行し、ブルネイの石油関係者と会談の予定でした。その日はクアラルンプール空港のＭＡＳ便で出発し、一時間ほどは快適な空の旅でしたが、事件はその後起きた。俄に機内が騒しくなり、パイロットが英語で「本機はエンジントラブルが発生し、急遽空路途中のマレーシア・サラワク州のクチン空港（木材関係の小空港）に緊急着陸する」とアナウンスしたので機内は騒然となったまま航空機は何とか不時着をした。その間我々は墜落の恐怖を強烈に感じてまさに生きた心地がしなかった生涯最大の体験だったことを強く記憶しています。

退職後15年間を振り返って

京葉会　福田正文

平成13年に66才で42年半のサラリーマン生活に終止符を打ったのですがその間に娘二人が結婚して妻と二人だけの家庭になっていました。これから何年生きられるか分らない残りの人生を夫婦で、有意義に過ごす事を考えたのも束の間、あっという間に15年が過ぎてしまい年が明ければ81才です。

今回、この機会に、この間の手帳やメモを頼りに退職後の印象に残っている事をまとめて見ました。

先ず初めは、長年の運動不足解消のためのスポーツジム通いで退職の翌年から週二回を目標に始めて10年間続けました。併せてウオーキングを60分から90分位を目安に家の周辺を歩くことにして、これは現在も続けてます。この結果基礎代謝も筋肉量もほとんど変化なく体力を維持出来ました。

次は旅行のことですが、70才頃から今迄のように友人達とゴルフを兼ねて出掛けるような事もなくなったので、これを期に妻と話し合って、行先を国内旅行中心に今迄行ったことのない所に二人で行くことにしました。そのお陰で出掛ける頻度が増えて、趣味の旅行を充分に堪能出来ました。最近では一泊か日帰りの旅を楽しんでおります。

ただ75才頃から、老化を意識させられる事が起き始めました。最初は74才になったとき比較的大きい大腸ポリープがみつかり、それを除去するため数年前から飲み始めた血液凝固剤の関係で人生最初の二週間の入院生活を経験しました。その二年後には、定期検査で胃がんが見つかり内視鏡による剥離手術を、検査入院と併せた約1カ月の入院中に行いました。昨年三年目の経過観察で経過は良好で心配ないと言われ、がんの宣告を受けた後の不安からやっと解放されました。

その他今年は運転免許証の更新の年にあたり、高齢者講習を受講して終了証明書を発行してもらい視力検査を残すだけになりました。妻からは心配だから一人では運転しないでくれと言われています。自分ではまだ充分自信があるのですがそろそろ免許証返上の時期が来た事を実感しました。

今後は益々体力が低下して行く中で健康に気をつけて有意義な人生を過ごして行ける様に努めて行きたいと考えています。

そのために積極的に外出して出来るだけ多くの人達と交流して心身をリフレッシュさせる事も老化防止の一つと思い実行して行きたいと思っています。

ひとこと「とり」

●「ブロイラー」

西東京会　安藤隆夫

若いころ勤務地の博多で鶏肉加工場の情景を目の当たりにした時、夏だというのに全身に鳥肌が立ちました。それ以来、焼き鳥、つくね、鳥刺し、水炊きといった鳥料理が食べられなくなりました。子供のころは郷里の名古屋コーチンが好物でしたのに。漸く最近になって、歳を取って来たせいか少しずつ食べられるようになってきました。でも鶏皮にはなかなか箸が出ません。もう少し時間が掛かりそうです。

●人の好みは変わるもの（〝とり〟にまつわる話）埼玉会　石井　憲

北海道で生まれ育った私には、鶏は庭で、餌をついばんでいる身近な存在であった。戦後、鶏卵は貴重な蛋白源であった。そんな時、何かのお祝いであったのだろうか。食膳につくと、いたはずの鶏が蒸した鶏肉となって目の前に……。その鳥肌が記憶に染みついて、それ以来、〝とり〟は一切食べられなくなった。その後、友達と連れ立って、飲み屋に行くようになると、誰かが〝焼き鳥〟を注文し、皆が美味しそうに食べる。私はひたすらキャベツを食べていた。あるとき、友達が焦げ目がきつい焼き鳥をさし出し、「思い切って食べてみなよ」。決意して、一口。香ばしくて、美味しい。呪縛が解けてからは、飲み屋に行くと、真っ先に焼き鳥を注文するのが常となった。今では〝皮塩〟が一番の好物である。

●酉年への期待

広島支部　伊藤敏雄

相場格言に曰く。「申・酉は騒ぐ」だそうである。確かに昨年は騒いだ。円、株式等乱高下した。さて今年は、専門家の検証によれば酉年の株式は戦後四勝一敗、平均約十四％のプラスだそうである。そして酉年の守護本尊は不動明王だそうである。煩悩を浄化し仏の慈悲で願いを叶えて下さるらしい。今年こそは失地回復めざしてせいぜい不動明王にお参りすることにしよう。果たしてこの矛盾したお願いを聞いて下さるかどうか。

●人情交差店　西東京会　上床敬子（うわとこけいこ）

〽苦（ニガ）い浮世の荒波に負（マ）けちゃ駄目（ダメ）です、負けないで、上床いいとこ、夢見床（ユメミドコ）、チョット覗（ノゾ）いてみませんか？　此（ココ）は人情、ここは人情人情交差店♪♪　朝一番の時を告げるニワトリに負けない大きな声で歌い出す私。日本一!!　ヘタな歌手、上床敬子Ⓡのお敬ちゃんでございます。どの位ヘタかと言いますと、日本国政府の特許庁に商標登録をしている程のヘタなんでございますの。この度、新入会させて頂きました。どうぞ宜しくお願い致します。

●年賀状

広島支部　川口　喬

今年は酉年。年賀状に「小鳥」か「鶴」でも書こうと思っていたら、酉年の鳥は「鶏」だそうだ。干支の酉は古代中国の占いや星の巡りに親しめるよう動物を記号として当てはめたものだと言われている。元来、記号としてなら瑞鳥といわれる日本の象徴「鶴」でもいいではないか。「鶴」でＯＫなら「しりとり」の「とり」でもＯＫか？「しりとりの「とり」→「リベンジ」。年賀状には「鶴」と「カープ日本一へリベンジ」と書いた。

●たかがとり、されどとり

京葉会　吉川敏孝

「とり」という言葉で思い浮かぶのは酒の肴焼き鳥や干支の酉、酉の刻（暮れ六、18時前後）である。またまわが郷土（木更津）の先覚者重城保（筆者の高祖父）の重城保日記全10巻を読む勉強会に参加している。そこには明治時代の日常生活が描かれている。小櫃川河口付近に生息している千鳥などを焼いたり鰻などを酒の肴にしながら、明治の文人・政治家や地元民と連日夜遅くまで交友を深めていた様子は筆者のサラリーマン時代の焼き鳥でちょいと一杯のアフターファイブと共通点がある。

●野鳥との出会い

広島支部　須賀紀哉

四十年前の瀬野川は汚れていたが、汚染対策が進み、一羽の真白い鷺が戻ってきた時は感動しました。今は広島で一番きれいな川になり、野鳥の楽園です。日退協では「野鳥観察の会」に入り、縮景園や広島城に探鳥に出かけ楽しみました。思い出に残るのはハチクマの観察会です。宮

島の対岸にある「おおの自然観察の森」で感動的な姿を観察しました。「アッ、出た！　どこ、どこ、ホラッ、出たよ！」と歓声があがりました。

●シジュウカラの子育て（巣立ち）のびっくり　竹内求馬

庭の巣箱にシジュウカラが卵を抱えた。ちびちゃんが顔を出す。餌をせっせと運び入れる親。いよいよ巣から飛び立つ6羽。羽が弱いので地面に着地。親はそばで待機。次第に羽に力が入り頼りなく飛び立つ。最後の子供が飛べるまで皆で待機。親の飛ぶほうに揃って飛んでいく。誰が教えた家族つくりを。

●母を偲ぶ　広島支部　谷口　博

母は酉年であった。平成二十八年十月十六日に満九十五歳で穏やかに今世から離れた。私は転勤族であり、「ふるさと」の歌を聴くと母を思い出し、親不孝に涙することが度々あった。幸いにして九年前母が健在の時に、定年退任して広島に帰ることが出来たが、転勤期間の二十二年間の埋め合わせが出来たかは母に聞くこともなかった。酉年の生まれで家にジッとしていないアウトドアの因子を受け継いで初七日を過ぎたら今日も日退協の活動に行く。遺伝子を繋いでゆくことが供養と思っている。

●焼鳥屋　神奈川会　夏井信芳

今回はストレス解消に良い？　少々のアルコールとおいしい「焼鳥」の店を紹介したいと思います。焼鳥は勿論、ピザ、刺身と特選ちじみ迄料理してくれて至福のひと時を過ごし、常連も多く時を刻んで早35年に至っています。ＪＡＲＰ「神奈川会」でのイベント後の懇親会に何度か出席していますが酒豪の方の多い事！　私は弱い方ですが雰囲気が好きで月に1～2回外遊しております。店の名前は中区野毛町「鳥福」です。是非足を運んでみてはいかがでしょうか。

●渡り鳥　京葉会　久村眞弘

渡り鳥は長時間休むことなく一万数千キロを飛び続ける。その驚くべき持久力の秘密はどこに？　翼を動かす胸の筋肉に多く含まれる「イミダペプチド」（アミノ酸結合体）成分であることが解明されています。

「鶏むね肉」にはその成分が豊富に含まれており「疲労回復」の効果があります（発ガンや老化予防効果など抗酸化作用も）。脂肪が少なくぱさぱさしてるので「柔らかく」調理方法の工夫がポイントです。

●小鳥たちに負けず元気に　神奈川会　吹田文彦

およそ優雅さとは縁遠い私でも、毎朝散歩する林道で聞く小鳥の鳴き声は、その折々の季節感を肌で感じ実に爽快な気分にさせてくれる。特に3月に入ると聞く鶯の鳴き声は、今年もよい季節がやってきたのだと実感する。まさに鶯が「春告げ鳥」と言われる所以がよくわかる。今年は酉年。狭い我が家の庭にも毎年訪れ果実を啄む元気な小鳥たちを眺めながら、当方も負けずに今年も1年健康で楽しく過ごせるよう願うところである。

●雉に脅される　広島支部　福田博吉

私が住んでいる団地は、広島市とは名ばかりで、「夜帰っても朝帰宅」と冷やかされる、安佐北区の山深き里です。お陰で、野鳥や鹿など野生生物との楽しい出会いもあります。春酣（はるたけなわ）の四月中旬、団地近くの山際に雉を見つけた時のことです。逃げないようにソッと近づきカメラを向けました。雉は逃げるどころか「ケーン」と啼いて羽根を大きくばたつかせ私を睨むのです。流石は鬼退治の雉の末裔、迫力十分、天晴れなり。

●色とりどり　埼玉会　藤田信一

神武東征の道案内をした八咫烏（やたがらす）と天武天皇の蹴鞠（大化の改新のきっかけ）をもとにした日本サッカーのエンブレムの意匠。一九八八年、ソウルオリンピックの開会式で、鳩離しと聖火台点灯を逆にし、鳩が焼き鳥になった事件。インドネシアの国章、ガルーダの羽毛の数は、独立宣言をした年月日を意味するなど、とりにまつわる話題は多々あります。

●鳶　広島支部　前田和子

今から三十五・六年前、鳶を餌付けしたことがある。40×40位の板を三メートルの棒の上に打ち付け、鯖の頭を5個置く。窓から見ていると、何処からともなく飛んできて大きな羽根をバーッと広げ（まるで鷹みたい）急降下、サッと捕え近くの電柱の天辺で食べヒュルーと鳴く、とてもうれしかった。何日も飽かずに眺めた。しかし長続きしなかった。鴉が知り数羽で鳶にからみ付き、遂に追い払われた。とても残念でした。

【訃報】副会長　森　保　氏

当協会副会長　森保氏は平成二十八年十一月二十五日に虚血性心不全のため急逝されました（享年八十三歳）。ご葬儀は東京田無市総持寺において三十日に多数の参列者を前に、しめやかに執り行われました。

森氏は平成十四年五月、事務局長に就任されて以降協会運営に尽力され、特に法改正に伴う公益社団法人への移行については中心的な役割を果たされました。またシニアの社会参加活動を促進する関連団体で構成された高齢社会ＮＧＯ連携協議会（高連協）にも理事として参画され、活躍されました。

昨年六月に副会長に再任された後も協会発展のためにご努力頂いていただけに誠に痛恨の極みであります。

ここに生前のご貢献に対し深い感謝の念を捧げるとともに、謹んでお悔やみ申し上げます。

（会員一同）

畏友　森　保氏を偲ぶ

青天の霹靂とは、まさにこのことを言うのでしょうか。

森さんは常日頃お元気であっただけに急逝の連絡を受けた時、一瞬時間が止まってしまった衝撃を受けました。

森さんとの交友は、平成十四年五月に始まります。出身母体は異なりますが、日本産業退職者協会に新米役員同期生として就任以来今日にいたるまで十有余年、師事してまいりました。

初対面の印象は、「悠揚迫らぬ大人の風格の持ち主」のイメージでした。

日本産業退職者協会での役割は、それぞれ異なりますが、共通の課題は「高齢者の社会参加を支援し、生き甲斐づくりを目指すために何をなすべきか」との一点に尽きます。

組織のガバナンス、コンプライアンス、各種のイベント事業活動、財務対策、会員対策等々なすべき課題は尽きませんが、各々果たすべき役割について意見交換したものです。

アドバイスを求めたいとき、真っ先に頭に浮かぶのは森さんの笑顔でした。小生の問題意識、疑問点を率直にぶっつけると、歯切れよく「あなたの考え通りで進めればよいと思う」と短く一言だけ。

その一言だけで、小生の悩みは氷解、大人と小人の違いをつくづく感じたものです。

人の器は、年齢の差で決まるものではなく持って生まれた天分によるものだということを改めて感じたものです。

最後に、十有余年にわたる交友に感謝し、尊敬する森さんに対する、わが想いを感ずるままに綴り捧げたいと思います。

一．大局観の持ち主
「つぼどころ」「おとしどころ」を心得た人
二．人格者である
「実るほど頭を垂れる稲穂かな」
頭が低く、気配りの人
三．安心感をあたえる
何も話さなくても会議の場にいるだけで周囲の人に安心感を与える人
四．教養人である
書道、茶道、謡、歌舞伎等に通じ滲み出る教養の持ち主

永年にわたるご指導有難うございました。

（顧問　榎本郁夫）

「週刊読書人」の編集長がすすめる本

週刊読書人編集長　**明石健五**

このあいだの参議院議員選挙では、「憲法改正」については、ほぼ論点とはなりませんでした。ただし、安倍晋三首相（自民党総裁）が選挙戦勝利後に改めて触れたように、自民党は立党以来、「現行憲法の自主的改正」を党是としてきたわけです。二〇一〇年綱領においても、「新憲法の制定を目指す」ことが謳われていました。近い将来、改正（改悪？）に向けて、国会で議論が進むに違いありません。改憲には、最終的に国民投票が必要となってきます。まさに一人一人の判断によって左右されるのです。イギリスのEU離脱騒動を思い起こしてみてください。あの結果に、本当の民意が表われていたのでしょうか。改憲にイエスもしくはノーの一票を投じるにしても、国民全体で広く意見を戦わせ、熟慮の末に臨みたいと思います。そのための参考となる三冊を紹介します。

◉柄谷行人著『憲法の無意識』
（岩波書店）

戦後七〇年、様々な改憲論（運動）に晒されながらも、なぜ憲法改正は実現されなかったのでしょうか。フロイトの「超自我」の概念を踏まえながら、九条が維持されてきた謎を解き明かしていきます……。憲法一条と九条の相補・相関関係について、あるいは九条の先行形態としての「（江戸）徳川の体制」など、興味深い論点がいくつも提起されます。第一次世界大戦は、サラエボの数発の銃声によってはじまりました。あれから百年余り、いつまた世界戦争が始まってもおかしくない状況にあります。それを阻止するために、日本が出来る唯一のこととは何でしょうか。「憲法九条を文字通り実行すること」だと、著者は言います。「非現実的」と思われるかもしれませんが、「理想」を掲げることを、決してやめてはいけない。柄谷さんの本を読むと、そのことを強く思います。

◉井上達夫『憲法の涙』
（毎日新聞出版）

改憲派・護憲派の矛盾と欺瞞を鋭く突いた一冊です。双方によって政争の具にされ、利用されてきた憲法は、今「涙している」――著者のその思いが、タイトルに表われています。憲法の役割と安全保障に関する基礎知識を整理し、今までになされた改憲論議を概観します。「徴兵制」を導入せよとの提案には一瞬仰天しますが、これは「良心的兵役拒否」と「無差別公平」をセットにした構想でもあります。その上で、「米国主導の集団的自衛権体制から、国連主導の集団的安全保障体制に移行する」ことを求めます。井上さんは何よりも「国民的熟議」を重視します。現行の制度では、改憲の発議から最短二ヶ月で国民投票が実行できる仕組みになっています。「時すでに遅し」となる前に、徹底的に話し合いを持ち、議論を深めることが肝要なのだと、井上さんは強調します。

◉互盛央『日本国民であるために』
（新潮社）

「戦後の日本は、憲法九条と日米同盟がともにあって初めて、完全な主権国家であることができる。しかし、それは民主主義の原理が機能不全を起こしている国家であるほかない」（二六一頁）。日本人は、なぜそのような特異な国家形態を保持し続けてしまったのでしょうか。「社会契約」や「基本的人権」「立憲主義」といった根本問題から考えていきます。憲法の成立過程を丹念に追いながら、いくつかの条文については、GHQの草案を参照しつつ、戦後日本が抱えるジレンマの源にあるものを明らかにします。今回紹介した三冊と合わせて、「日本国憲法」を再読し、自民党作成の「日本国憲法改正草案」（二〇一二年）と比較分析する必要もあるでしょう。そこから広く「熟議」が始められることを期待したいと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・

『週刊読書人』は二〇一八年に創刊六〇周年を迎える、歴史ある書評専門紙です（毎週金曜日発行）。一年間に八万点以上刊行される新刊書から、毎週一〇～一五点ほどを、書評やインタビュー・対談等で取り上げます（年間総計約七〇〇点）。文学賞の受賞会見や出版界の出来事なども幅広く取材し、記事にしています。

◆定期購読のお申し込みは
162-0805　新宿区矢来町109
（株）読書人
電話03-3260-5791
※定価280円×50週14000円を13000円とし、送料をサービスいたします。

イベントだより

囲碁会

■第52回　囲碁大会

秋の囲碁大会が、十月二十六日（水）に市ヶ谷の日本棋院で参加二十四名で開催されました。

増渕運営委員長から、対局ルール等の説明の後開会宣言があり、対局が開始されました。

女性が六名も参加してくれたこともあり、なごやかな中で熱戦が繰り広げられ、左記の優績者が決定した。

Aクラス　優勝　小川浄二　九段
　　二位　恩地　肇　六段
Bクラス　優勝　日巻　敬　四段
　　二位　榎本洋一　四段

各クラス優勝者のコメントです。

Aクラス　小川浄二　九段

今回、運に恵まれ優勝となり喜んでおります。本大会には20年程前からほとんど毎年参加させて頂いておりますのは、和気藹々とした雰囲気を好んでいるからでもあります。

毎年友人を誘い、今回は六人参加しうち女性が三人、茨城と千葉から来てくれました。大会の盛り上げに少し役に立ったと成績より嬉しく思っている次第です。

次回以降も友人と積極的に参加して行こうと思っています。そして本大会の発展を祈っております。

Bクラス　日巻　敬　四段

大会の日は朝から体調がおもわしくなく、会場にもやっとの思いで着いたのを覚えています。体調も悪く今日の成績も駄目だろうと冷静になれたのでしょうか三連勝することができました。しかし四回戦前に息苦しくなり、棄権を申し出て、やっとの思いで自宅に戻りました。後日事務局よりB級優勝との通知をいただき、仰天いたしました。

（上村洋一）

江戸東京歴史散歩の会

■第80回　渋谷から恵比寿界隈散策

（10月18日　参加者36名）

春に企画された渋谷から恵比寿界隈散策は、当日雨天のため中止された。秋に再度計画し、前日の雨で実行が懸念されたが、当日は晴れて散策には暑いくらいの気温になった。

集合は渋谷駅ハチ公銅像前でしたが、さすが待ち合わせのスポットのため混雑していた。

まずは若者でにぎわい、再開発の進む渋谷ヒカリエを出発し渋谷川の流れる谷から金王八幡宮へと向かった。金王八幡宮は渋谷氏の祖河崎基家が創建されたと伝えられており、当初は渋谷八幡宮と称されたが、渋谷金王丸の名声にちなんで渋谷金王八幡宮と称されるようになった。境内には金王桜という一枝に一重と八重がいり混じって咲く珍しい桜がある。桜の季節に一度訪ねてみたいと思う。

次に訪れたのは渋谷氷川神社で江戸時代から勧進相撲が行われていた土俵が隣接の公園に残っている。境内を抜け國學院大學へ。皇學館大學と並んで神道の大学である。その構内にある、考古・神道・校史にかかわる展示がなされている國學院大學博物館を見学した。今回は時間の関係で見学時間が少なかったが興味のある人は個人でゆっくりと見学を勧めます。

その後、江戸時代の盲目の学者塙保己一が長い時間をかけ日本史を編纂した「群書類従」の版木が残されている温故学会会館（今回は外観のみ）、消防署と同居した時の望楼のある広尾小学校（いずれも登録有形文化財）を通り福昌寺に向かい本堂前の石棺仏（石棺仏とは石材が六世紀頃の古墳の家型石棺の蓋として使われた和泉砂岩）の阿弥陀像を参拝後、福岡藩黒田家の菩提寺祥雲寺へ行った。祥雲寺には他にも秋月藩黒田家、久留米藩有馬家など諸藩の墓地が多数と曲直瀬家（医者）、岡本玄冶及び幕末にペストがはやり、鼠退治した時の供養の鼠塚など多数あった。

祥雲寺参拝後、恵比寿駅方向へ向

かい恵比寿ビール工場跡（恵比寿ガーデンプレイス）で解散した。

渋谷界隈は意外と坂が多く、疲れたが天気に恵まれて楽しい時間を過ごしました。（野ケ山信和）

■第81回　神田・御茶ノ水周辺を歩く

（11月15日　参加者31名）

今回は神田から御茶ノ水まで歩くコースです。「江戸っ子だってねぇ、神田の生まれよ」でお馴染みの神田は、江戸時代からいなせな江戸っ子の職人や町人達が暮らしていた街でした。今でも当時のおもかげを残す老舗や、現存する建造物も多く残っているところです。

雨の予報から幸運にも曇りに転じたこの日、31名のご参加をいただきました。先ず向かったのが、ニコライ堂の愛称で親しまれている東京復活大聖堂。今回は特別に聖堂内を見学することが出来ました。ビザンチン式建造物としては国内最大で、国の重要文化財に指定されています。聖堂内で担当の方から説明がありましたが、堂内の豪華なイコン（聖人の像や絵画）に圧倒され、皆さんしばしの間見とれていたのが印象的でした。

ニコライ堂前にて

続けて一行は蜀山人終焉の地を経由して、坂を下り神田連雀町に到着しました。この辺りは江戸・明治期から続く老舗が多く残っている区域です。やぶ、ぼたん、いせ源、松榮亭、竹むら、まつや等々。名前を聴くだけで懐かしさを憶える人もいて、今でも当時の味を慕って多くのファンが通ってくるそうです。

中央線の旧万世橋駅の様変わりは想像を絶するほどでした。平成の大改修により近代的な商業施設（マーチエキュート）に変貌し、秋葉原に近いこともあり、多くの若者が出入りするようになりました。また開業時のホームが一部公開されていて、電車が間近に見られるスポットとしても人気を博しています。一度お出掛けになることをお勧めします。

次に訪れたのは神田明神です。江戸時代に将軍家より手厚く崇敬を受けた神社で、正式名は神田神社です。東京の中心一〇八町会の総氏神様で、江戸三大祭りのひとつ神田祭は特に有名です。最後に湯島聖堂・昌平坂学問所に立ち寄り、ゴールの御茶ノ水駅に全員元気に到着しました。

（佐久間征二）

園芸クラブ

■香取市　水郷佐原水生植物園　あやめ観賞会

（6月12日　参加者4名）

5月下旬よりおよそ一ヶ月間開催される「あやめ祭り」に臨時特急あやめ祭り号に乗り出向きました。

この植物園は水郷筑波国定公園内に位置し、約二万四千坪の園内には島や橋、水面などが配置され、水郷地帯の情緒を味わえました。

当日はあやめ祭りの中間期で、江戸・肥後・伊勢系など東洋一を誇る４００品種１５０万本の花菖蒲が様様な色、形で咲き乱れており二時間ほど園内を回遊し楽しみました。

また、「嫁入り舟」のイベントも興を添えてくれました。

植物園よりの帰路、「小江戸佐原」の歴史的町並みに立ち回り、伊能忠敬旧宅のほか文化財建物13棟をボランティアガイドの案内で見学し、花と小江戸に満足した一日でした。

■小石川後楽園　紅葉観賞会

（11月29日　参加者15名）

建替え中の飯田橋駅西口に11時20分に集合し、神楽坂「別亭鳥茶屋」にて昼食の後、徒歩にて「小石川後楽園」に移動しました。

この庭園は、皆様ご存じのとおり江戸時代初期に水戸徳川家の祖である頼房が造園に着手し二代光圀が完成させた回遊式築山泉水庭園で、明の儒学者朱舜水の意見を用い中国の風物を取り入れ、園名も「天下の憂いに先だって憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ」から後楽園と名付けられました。

当日は、初冬を感じさせない好天にめぐまれ、また、ボランティア・ガイドの懇切な案内に導かれ一時間半ほど園内を巡回しました。モミジが見事に紅・黄に色づいていて、それが陽光と青空に映え、浮き上がり、おおいに楽しませてくれました。

（星　洋一）

鎌倉探訪

■120回　鎌倉探訪

（10月21日　参加者40名）

今回は記念すべき百二十回の鎌倉探訪。賑々しい役者絵の刷り込まれた立派な資料が朝一番に配られた。これは会員Ｉ氏手作りの歌舞伎資料。資料を手に、先ずは新装なった段葛を花道宜しく一同にて練り歩き。（三月末に桜吹雪の下で、中村吉右衛門丈による通り初めがあった）

〈第一幕〉

鶴岡八幡宮社頭は「梶原平三誉石切」と「仮名手本忠臣蔵」兜改めの名場面の舞台。手水石前でＩ氏が解説をすると、セリフに合わせ「役者も役者！」と大向こうから掛け声がかかる。時恰も婚礼の行列が私達の前を通り、まるで錦絵を見る様だ。何と幸先良い本日の幕開け！

〈第二幕〉

一旦鎌倉駅へ戻り江ノ電にて長谷駅へ。歩いてすぐの御霊神社は鎌倉権五郎景政が御祭神。歌舞伎十八番では団十郎の当たり役「暫」の主人公として登場。Ｉ氏の「暫く～」のセリフに盛り上がった所で、隣接の会館へ。Ｉ氏と鎌倉ガイド協会の方による解説を聞く。鎌倉と歌舞伎の所縁を説明。幕府のご政道批判を公然と出来なかった時代に、時と所を鎌倉に置き換え歌舞伎仕立てにしたと言う解説を頭に入れ、次は極楽寺。

〈第三幕〉

「青砥稿花紅彩画（あおとぞうしはなのにしきえ）」と言うより、弁天小僧の名で知られた物語。極楽寺の大屋根や山門で、弁天小僧と日本駄右衛門が捕り手相手の大立ち回りを演じる。山門前で解説を受けていると臨場感もあり、作り話がまことしやかに聞こえてくるのが何とも不思議であった。本来この寺は、忍性という高僧が慈善事業を行った事で有名な旧跡。悪事が潰える勧善懲悪の場に相応しいのかも？

〈第四幕〉

極楽寺坂の切通しを下り、坂の下海岸へ向かう途中、近年のＴＶドラマの舞台となった喫茶店の前を通る。女優や男優の名が参加者の口を衝いて出る。鎌倉は今でも物語の舞台に事欠かない場であるのです。そのドラマにもたびたび登場した由比ガ浜。しかしそこに流れている稲瀬川を知る人は少ない。御存知「白浪五人男」の「稲瀬川勢揃い」の場。「問われて名乗るもおこがましいが…」と次々に名乗りを上げていく五人の盗賊。傘をかざし粋に見得を切る様は今風に言えば「カッコイイ！」となりますが、結局悪は滅びます。ここから由比ガ浜海岸の最近建った「桜貝の碑」を見ながら終幕へ。

〈第五幕〉

さてどん尻に控えしは、真砂は尽きぬ由比ガ浜、浜から歩いて「御代川」に、今日の佳き日を記念して、集いて祝う大宴会。陣太鼓ならぬＹ氏の、目出度尽くしの乾杯に、一同唱和し始まれば、上を下への大騒ぎ。旨い料理と会話には心を開くが人の常。待ってましたと登場は、本日初めて参加した九人が次々名乗りあげ、次に控える看板は、二枚目Ｉ氏の口上と、ここで一節白浪の弁天小僧菊之助。セリフをさらりと語り終え、見得きる時に「高島屋！」やんやの喝采浴びる中、参加の衆に配られた、これは番外サプライズ！粋で小体なポチ袋、中身は綺麗な桜貝、Ｏ氏が苦労し集めたる、鎌倉所縁の記念品。加えて更なるお土産はＳ氏手作り竹とんぼ、ヘリコプターの形した、動きも巧みな竹玩具。二つを手にし満たされた顔が溢れる鎌倉の探訪。舞

台お開きは和気藹々の四〇人。何はともあれ今回の、百二十回は大成功。皆々様のご参加を、隅から隅まで、ずずい～と感謝申し上げま～す。

（加藤文男）

カラオケ会Ⅱ

カラオケ会Ⅱの会場が変更になりました

前々から話がありましたが、今迄の会場運営者千恵子ママの都合で、銀座七丁目の「クレシェンドクラブ」から銀座五丁目の「クラブＴＴ銀座」に八月開催日より移動致しました。新開催場所は銀座四丁目三越前交差点から数分のところで大変便利なところです。

八月二十日には新会場にてカラオケ会Ⅱを開催致しました。

夏休み中にも関わらず十数名の方々が参加され、加えてシャンソン歌手松岡けいこさんが飛入り参加され華を添えて頂きました。

参加者も大いに盛り上がった処で越路吹雪の「ろくでなし」を会場の雰囲気に合わせて唄って頂き会場もさらに盛り上がりをみせました。

熱唱中の松岡けい子さん

カラオケを楽しむことで、リラックスでき心身が癒されるとか。

マイクを持って大きな声を発することでストレスが発散されます。カラオケで思い切り大きな声で唄いたい方、またカラオケに興味のある方は一度カラオケ会（Ⅰ～Ⅱ）を覗いてみて下さい。お待ちしています。

（西納政光）

サロンコンサート

■第41回　サロンコンサート

（9月14日　参加者73名）

今回のサロンコンサートは、従来の原宿ライブハウスの「アコスタジオ」から場所を変更して開催しました。赤坂見附駅より徒歩約10分の「グローバルユースビューロー」社のコンサートホールをお借りしました。

同社のオーナーが「日退協」の活動内容に賛同され、ほぼ無償でのホール使用の許可をくださいました。80名超の座席があり音響効果、照明設備等々が完璧に整っている素晴らしいホールです（同社では毎週のように国内外のミュージシャンに場所を提供しミニコンサートを開催しています）。

奥平哲也氏「マリンバ演奏」

マリンバとピアノ演奏

私共の今回のサロンコンサートは、奥平哲也氏による「マリンバ演奏」でした。サロンコンサートでは初めてのマリンバ・コンサートです。

ここ例年にない多数の会員及び友人の方々の参加でした。奥平氏の素晴らしい演奏による「あなたに贈る名曲の花束」と題した曲目の数々、奏でる技術と雰囲気に皆様は魅了されておられました。

マリンバ演奏に接するのは初めてと云われた方々もかなりおられましたが、皆様から素晴らしい内容のコ

ンサートだったとのご好評を多く頂きました。この企画を準備した一同も嬉しく思いました。

今回は新会場の開催でのご案内で少々ご迷惑も掛けましたが収益金も捻出でき公益活動の一端に寄付もできました。

（湯藤　哲）

四季の会

■第12回「お料理教室」

（6月24日　参加者25名）

「四季の会」が初めて企画した「お料理教室」がアートフォーラムあざみ野で開催されました。予想に反し参加者の半数が男性で「男子厨房に入らず」はここでは死語となりました。

料理風景

講師によるレシピの手順の説明後三班に分かれ、誰も指示を受けず、食材を洗う人、調理をする人、煮炊きをする人等手際よく進捗し、一時間も経たず瞬くうちに四種類の料理を完成させ、その後、大テーブルに全員が集合し、各班ごとに各人が試食、出来栄えを批評し、滞りなく終了となりました。

料理をすることの利点は、栄養バランスの整った生活が自然に確立され、また味、触、視、聴、嗅の五感をすべて使用するため脳の各領域を万遍なく刺激し、活性化につながるようです。これを機に特に男性の方々、是非料理することに興味を持って下さい。

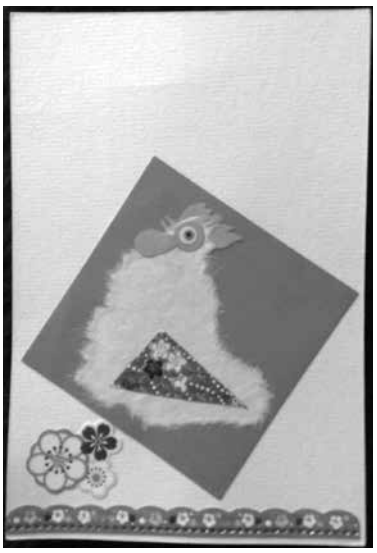
次回の開催を待ちわびております。

（蓮井　暁）

■第13回「大人の貼り絵」

（10月12日　参加者11名）

当協会の会員になってもう七年。今般「エイッ」と初のイベント参加。絵心ナシ、センスナシの私、不安半分、興味半分。でも糸数先生が懇切丁寧に教えて下さりアッと言う間に八枚もの貼り絵のカードが完成。かわいいクリスマスカード、干支（酉）の年賀状、ハートがいっぱいのグリーティングカード等などたくさんできました。こんなカードももらったら嬉しいだろうなー、なんて思いつつも初めての貼り絵、いとおしくてとても手放せません。



加賀城加奈江さんの作品

私はこの日の作品を額に入れ壁に掛け楽しんでいます。今は赤や黄色のモミジやイチョウの秋の風情、次は、年始は、と楽しみは続きます。どれも初回にしては上々の出来と自画自賛。

とても楽しい一日でしたので、また同様のイベントがありましたら是非参加させて頂きたいと思います。

（加賀城加奈江）

詩吟会

当会は創設以来三年目を迎えた。

全員素人だったのが是道先生のご指導により大分上昇実感が感じられる。

本年の主な活動は左記のとおりで、内外のイベントも多彩になった

◆六月五日　テイチク吟詠大会では合吟「清明」を披露した。

◆八月二五日　第三回温習会（おさらい会）を盛大に実施。日頃の練習成果を発表し合った。

◆八月二八日　テイチク東日本吟詠コンクールに会員五人出場。うち三名が入賞の成果を上げた。

◆一〇月二五日　日教吟　吟剣詩舞道大会には独吟四名および構成吟の「詩吟と茶道のコラボ」という新企画を披露して、趣と華麗な舞台は絶賛を博した。なお茶道師匠は当会会員である吉田女史でした。

今年は男女二名の新規加入もあり、

毎月第四木曜日の定例練習会もさらに熱が入ってきました。

（芝山　茂）

詩吟会　勢揃い

自然を楽しむ会

■第56回　野川公園

（10月13日　参加者19名）

武蔵小金井駅10時半集合。バスで10分の都立「武蔵野公園」に入る。本日の散策はその珍しい苗圃（園樹・街路樹を育てる区画）を巡ることから始まった。ここを急ぎ足で見てから東八道路を東に歩いて「野川公園」に。この公園は国際基督教大学のゴルフ場だった所を都が買取って40ヘクタールの公園にしたらしい。広い芝生地が多いが、樹木も見事に育っている。「いこいの広場」の大きな東屋で1時間の昼食休憩。

午後は欅橋で東八道路を渡り、北地区を横切ってから野川に沿って歩き、フェンスで囲われた細長い「自然観察園」に入って1時間半じっくりと見歩き、ツリフネソウ、ミゾソバ、イヌショウマその他たくさんの野草や赤い実のついた木々を観察した。「自然観察園」はまさに野草木の宝庫のようであった。

「自然観察センター」に寄ってから、バスで武蔵小金井駅に戻り、解散（3時半）。ここでは4名だけ帰り、有志15名は駅前ファミレスで1時間強の懇親会をにぎやかに楽しんだ。

今回はミニミニ図鑑#20を配布。

■第57回　自然教育園

（11月10日　参加者24名）

JR目黒駅に集合し、10時半にスタート。目黒通を歩き、庭園美術館前を過ぎると、自然教育園正門に着く。

入ってすぐ、きょうのコース説明やこの場所の歴史・特徴など解説。都心にありながら奥深い緑に包まれた広大な一角が保たれたのは、何百年前から大名屋敷、皇室御料地などとして使われ続けたからだ。

入口から数百m続く小道の両側が「路傍植物園」で、往路は左側のみ見ながら進む。今を盛りに咲いていたのがシロヨメナ。ここには沢山の草花や樹木があって、一々名札が付けられ、さすが「教育園」と冠した筈と頷かされる。天然記念物に指定されているだけあって高木・巨木が実に多い。綺麗なビューポイント〝モミジの見どころ〟もある。

園中央部のヒョウタン池のほとりで40分の昼食休憩。今日は寒いので全体に進行を早めることとする。建替え中だったここのトイレが丁度今日から新装オープンになり助かった。

午後は、「水生植物園」を経て、「武蔵野植物園」を巡った。多種の草花も盛りを過ぎていたものが多かった。

「水鳥の池」を通る小道を進み、当園だけの希少種「トラノオスズカケ」や、葉の陰で健気に咲く「吉祥草」の大群落を目にした。それから再び「路傍植物園」を辿って正門に戻り、全コースを終了（2時半）。

解散後、19名がジョナサンでの懇親会に参加。今回、初参加の方々も皆イベントが楽しかったとの感想があり、またキャップの持寄りも非常に多かった。図鑑は#21を配布。

（店網俊夫）

水墨画教室

■公募第31回　日本水墨院展開催

（於国立新美術館　6月22日～7月3日）

第31回展は国立新美術館に移って、10年目になり、この展覧会は増々充実、活気が感じられ全国各地から、参加者が増えており、今回出品点数は二六八点、入場者数一万三千余名を数え、国内屈指の水墨画展となりました。

私共日退協水墨画教室会員は、日頃の研鑽の成果として、この展覧会に参加、出品しておりますが、講師の飛田硯水先生は日本水墨院副理事長の要職に在る為、何かと、懇切なる指導を受けております。

我が教室から15点が出品展示され、3作品が受賞されました。

佳作賞　山崎文子　上高地(30号)
奨励賞　大塚陽水　霊　峰(30号)
奨励賞　荒谷　威　和の聖地(30号)

研修会風景

研修会参加者

受賞された方々に心よりお祝いを申しあげると共に、益々の活躍を祈念致します。

■第20回　日本水墨院研修会開催

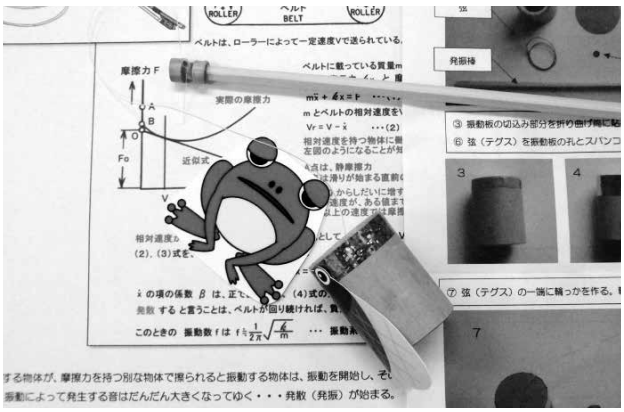
（於ハピネスケア四谷　10月7日）

日本水墨院主催の会員始め一般の方も参加出来る「墨の表情を豊かにするには」と題して今回は、講師沈和年（しんわねん）先生（日中文武国際芸術研究学会副会長）による実技指導と講演が行われました。参加費は会場費として５００円。場所も（四谷駅徒歩2分）大変便利な為好評でした。今年も実施予定です、乞ご来場。

（須釜栄作）

竹とんぼ同好会

某月の作品「鳴き蝉」では参加者の思いがけない支援に助けられ、意外な展開に驚いたものです。20センチ程の箸状の竹軸の先端を少し細く削り、蝉に見立てた竹筒を結んだ紐のもう一方を輪にしてその竹軸の縦れた部分に通してクルクル回すと蝉の鳴き声のような摩擦音を発するおもちゃですが、このセミの鳴き声を出させるためには「縦れ」にヴァイオリンの弓に付ける松脂が必要となるので講師と、どうしようかと悩むなか、この同好会の仲間の一人から「提供できる」と聞いて「エッ!!ホントに?」。ご本人に大変恐縮なことですがチョット意外な人からの申出だったのです。奥様がヴァイオリンを楽しまれていたそうで、お陰様で「ミンミンと綺麗に鳴く」蝉を楽しむことが出来、この会の活動を通じて「人は見かけによらない」ことを改めて思い知ることになりまし



竹筒で作った「鳴き蝉」

た。日退協に加入したからこそ得ることが出来た人と人の繋がりや絆、人情の温かみの味をじっくり噛みしめています。日退協に感謝！

（富川　正）

築地海鮮丼川柳会

昨年の初夏の声を聞き始めたころから我ら川柳ボケ一同には稀に見る材料豊富な季節となりました。順不同に並べれば湯河原事件で都知事の引退、膨張し放題の五輪予算、リオ五輪の予想外の大成功、泰山鳴動の伊勢志摩サミット、反党大勝の小池新知事、都議会と都知事との確執、築地と豊洲の行方やいかに、踵を返して国外ではまさかと思ったトランプ当選、青瓦台の大混乱、英国のＥＵ離脱、北朝鮮の核拡大などと多様です。

庶民の声としての川柳では今年も育児、年金、高齢、物価、復興など話題山積の一年になりそうで、月例会後のちょっと一杯が楽しみです。

海鮮丼川柳会この半年の作品をご紹介します。

宿題句は津田暹先生の選句、自由吟は互選句です。

宿題「注意」

夜行バス夜は運転手も眠い
里山の廃れ我が物顔の熊
黄信号青のつもりで生きている

宿題「ユニーク」

ユニークでと済ませてしまう語彙のなさ
ユニークな生き方芸に味を付け
長生きの秘訣時流は崩さない

宿題「八月」

折り鶴が増え二度とないきのこ雲
七十一皮膚が記憶の終戦日
葉月にも緑の百合の咲く都庁

宿題「橋」

沈下橋先人の知恵永遠に生き
東京へリオから架ける長い橋
天皇の孤愁を映す二重橋

宿題「太る・肥る」

老残を太く短く駆け抜ける
金銭の感覚失せる肥満都市
温暖化台風までも太らせる

自由吟互選句

今日と言う一番若い日に感謝
団塊の老後破産の際で耐え
眠そうな振りをしている老いの知恵
文春へ都議会が出す感謝状
太陽の涙をダムが待っている
外づらで暮らせばきっといい夫婦
手も足も出ぬ国連に北の核
都議会の猛魚が待っている小池

（家根一星）

デジカメクラブ

当会では外へ出ての撮影会を、年に一度ほど実施していますが、今年は六義園の紅葉をテーマに、十一月下旬に実施しました。今回は紅葉の色が鮮やかではなく残念でした。

結果をＵＳＢに入れて持ち寄り、会議室のモニターで発表、メンバーの皆さんの意見を出し合っています。

普段の月例会では、特にテーマを決めずに、花や街並みや旅行でのスナップなど、それぞれ自由なテーマでの写真を持ち寄って皆さんからの意見を伺ったりして、和気あいあいと例会を楽しんでいます。

デジカメに関して、周辺機器などの技術動向なども話題になります。

最近の話題ですが、「互換インクは問題なく使用できるか？」

最近、量販店で、メーカー純正インクと並べてＰ社の互換インクを販売しており、保証もサポートも確立しているようだし、価格も25％位安く、混在使用も問題ないとうたっています。

一方、プリンターメーカーとしては発色再現性・耐久性などや不純物の混入予防などに多大な時間をかけ、品質・信頼性の向上に力を入れていると聞いたことがあります。

互換インクについては初期品質だけで良否の判断をすることは難しいと思います。もう少し情報を収集して、例会でプレゼン出来ればと思っています。

当会は毎月第一水曜日、協会の会

議室で午後1時半から4時まで例会を開催しています。興味がありましたら是非参加してみてください。

（細田將孜）

パソコンクラブ

「画像で知る世界の広さ」

それなりに大騒ぎをしたウインドウズ10もひと段落。我がパソコンクラブでも興味を持った人は移行したり、新しくウインドウズ10のパソコンを購入したりして、確かに速くて使いやすいOSを楽しんでいます。

ただ、従来ウインドウズライブでメールしていた場合は少し戸惑いを感じた人も居られたようですが、ウエブメールに鞍替えしたりして解決されています。

さて、このところ私たちの例会ではUSBの進歩など、その時々の技術的な問題も毎回勉強していますが、パソコンならではの画像を使った情報を楽しんでいます。

「舛添問題」は一体何がどのように問題だったのか、一転して「OK牧場の決闘」はどのような背景があって作られたのか、何作あるのか、例えば「愛しのクレメンタイン」が何故あそこで歌われたのか。「リオデジャネイロオリンピックの閉会式での日本プレゼンテーションを注意深く見たら、そこに驚くべく凄さが仕組まれていた！　直近ではアメリカ大統領選挙の結果の時々刻々の推移、何故トランプが……そもそもトランプってどんな男?

これらは「ユーチューブ」等へのリアルタイムの投稿を検索することで、大手マスメディアで生ぬるい情報を得るよりも余程新鮮、文字の何倍もの内容を提供してくれる情報を即座に、種々雑多ではあるが楽しい画像・動画などで得ることが出来ます。

日退協のホームページからパソコンクラブを訪れてください。ここまで書いてきたことが楽しく編集された作品として24時間お待ちしています。

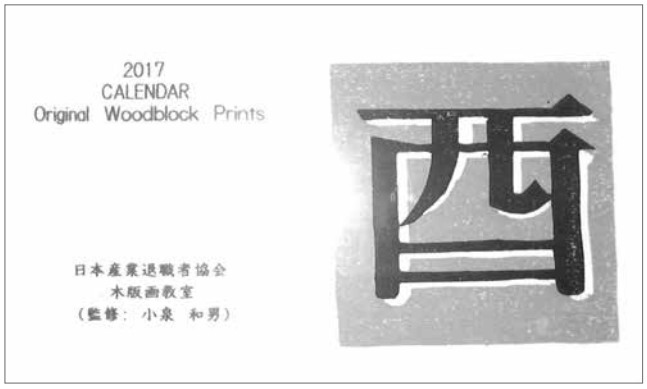
（富川　正）

木版画教室

当教室では小泉和男先生の指導のもと、創作活動の一環として毎年カレンダーの制作を10年前からおこなってきています。２０１７年用の作品も各人の趣向をこらして作りあげました。

制作には結構体力を使うので皆四苦八苦しましたが、どうやら無事完了しこの由緒あるイベントの灯りを消さずに済みホッとしました。しかし摺りあがった時の爽快な気分は何とも言えないものがありました。

そして作品の一部を寄付してささやかながら社会貢献活動の一助にさせて頂いています。



2017年カレンダー

またカレンダー制作とは別に各人の好みの作品を自由制作し公募展等に出品もしております。

年間の計画では教室内のみならず幅広い野外活動等も予定していますがなかなか思うようにいかないのが実情です。

会員の皆さんも多少なりとも興味がありましたら気軽に覗いてみて下さい。お待ちしています。

（林　俊機）

歴史を考える会

■第153回、第154回

「騎馬民族征服王朝説・再考」

講師　高川博会員

（5月23日、6月27日）

先の大戦後の混乱期であった昭和23年に東大教授の江上波夫により提

唱された騎馬民族征服王朝説（我が国における統一国家の出現と大和朝廷の創始は、東北アジア・固有満州族の扶余系騎馬民族によって4世紀末から5世紀前半に達成された、との説）発表当初は閉塞感に満ちた世相に大きな反響を呼んだが、現在では過去の学問として忘れ去られた感が強い。ところが近年の考古学的発掘の成果は、日本列島各地における騎馬文化の到来と急速な伝播を明確にしたし、海外でも江上説を裏付ける注目すべき発見が相次いでいる。韓国の金海・大成洞古墳からは4世紀の北方騎馬民族系の遺物が多数出土したし、中国の洛陽郊外の墓地からは扶余隆墓誌が発見されて扶余→高句麗→百済→辰王朝という東アジア世界の王朝の系譜が明らかになった。この騎馬民族征服王朝というネーミングは発表直後に某出版社によって付けられたものだが、元寇をイメージさせるような急激な侵攻と征服については、江上は当初から否定している。朝鮮半島にあった辰王の系譜が、崇神から応神へと世代を重ねて九州北部への進出を図り、次第に倭人と同化を続けた結果、遂に大和に新王朝を樹立した、という見解を示していた。これまで反対説の多くは、そのような誤った概念を前提にして論じられてきたのは、誠に残念なことである。この学説自体は、今でも十分に通用するものであり、後世の考古学的知見が殆ど無かった時代に、このような壮大な仮説を打ち出した先見性は再評価されて然るべきである。なお、この説を正確に表現するとすれば「扶余系辰王朝渡来説」がより適切であろう。

■第155回、第156回
「わかりやすい日本近代史」
（明治34年から大正13年まで）
講師　鈴木俊二会員

（7月25日、9月26日）

明治34年6月、元老でない首相がはじめて出現した。元老山県有朋直系の桂太郎陸相である。その後、対ロシアとの協調に望みを託した元老伊藤博文と、ロシアと戦うことも止むなしとする桂内閣との間に意志の違いが生じた。しかし桂内閣の日露戦争準備が進み、特に明治35年1月日英同盟締結に成功したこと。それが日本海海戦の大勝利となり、ポーツマス講和会議の実現となった。

ここまでの歴史的事実は世界の注目を浴び、また誇るべきものと思う。ところが講和会議後、イギリスと共に日本に好意的なアメリカの期待を裏切るような事件が発生したのである。

問題はこれを元老がなぜ止められなかったのか、である。

事のおこりは、病気で遅れて帰国した小村寿太郎外相の強硬な反対で、すでに伊藤博文、桂首相が承諾したハリマン鉄道王の提案（日本が獲得した南満州鉄道の共同経営）を約一月半過ぎた後、全く白紙にもどしたことである。このことを知らされたハリマンは激怒し次のように言ったという。「自分はいままで小村寿太郎をハーバード大学出身の外交官としてアメリカの誇りと思っていた。しかしいまではマキャヴェリ以上の陰謀家だと思っている。日米両国は10年を出ずして砲火の中にまみえるであろう」と。

その後の日米関係は溝が深まって行く。そうして遂に絶対的排日移民法が成立する。この時、財界の長老、渋沢栄一は次のように語った。「アメリカは正義の国、人道を重んずる国であると年来信じていた。カリフォルニアで排日運動が起こったときも、それは誤解に基づくものと思っていたから、自分なりに日米親善に尽力したつもりである。ところがアメリカは絶対的排日法を作った。これを見て私は何もかも嫌になった。

今まで日米親善に尽力したのは何だったのか、神も仏もいないのか、という気分になってしまった」と。温厚円満な人物といわれた渋沢栄一の言葉である。一般市民もこの排日法に大きなショックを受けたという。

渡部昇一は日米開戦の遠い原因は米国の排日法にあると書いているが、さらに逆上ってハリマンの事件が発端にあると私は思う。**（鈴木俊二）**

神奈川会

■第50回イベント
「生命の星・地球博物館」見学
（6月10日　参加者24名）

梅雨の中休みの好天に恵まれ、ＪＲ小田原駅に定刻に全員集合。箱根登山鉄道に乗り換え入生田駅に降り、一同目の前の巨大な建築物に驚く。当博物館は地球46億年の歴史の中での自然の変化、多様な生命の興亡、自然と人間とのかかわり、神奈川の自然などをテーマとして、１９９５年3月に開館した神奈川県立の施設です。

11時30分に入館後、レストランでの早めの昼食と休憩後に30分間のビデオによるガイダンスを受けてから自由見学を実施。3階まで吹き抜けのメイン展示場は「地球を考える」がメインテーマで、地球誕生の過程・地球内部の構造・環境変化の様子が紹介され、巨大な岩石・隕石・貴重な鉱物資源が展示されている。また「生命を考える」展示室には、生命の発生から今日に至るまでの進化の過程が紹介され、巨大恐竜の骨格標本や希少動物・昆虫・植物の標本が展示されている。3階の「神奈川を考える」展示室には神奈川の大地の生い立ちと自然・生物の現状が豊富な資料で紹介されている。

生命の星・地球博物館にて

2時間弱の見学であったが、改めて私たちが住んでいる地球を考える良い機会であり、素晴らしい学習ができたと皆さん満足されたようでした。

エントランス前で記念撮影をして3時過ぎに現地解散。有志13名で小田原駅地下の「魚國」で懇親会を開催し、いつもの通りに盛り上がり、再会を約して散会しました。

（飯田吉辰）

■第51回イベント　講演会
「カメラに託した水への熱き想い」
（7月21日　参加者39名）

朝からの雨が弱まる中、新横浜の会場に予定通り全員が集合。水中デジタルカメラマン豊田直之氏の講演を傾聴しました。氏は若い頃からの釣り好きが高じて水をテーマとした仕事に就き、得意のカメラを通して水の輪廻・美しさ・大切さをアピールする「ＮＰＯ法人　海の森・山の森」を設立されました。

講演は氏が撮影した多数の美しい写真パネルが飾られた会場でプロジェクターを駆使して行われました。氏の活動範囲は広く、清流で有名な屋久島や四国の四万十川をはじめとして日本全域に及んでいますが、今回は横浜市の水道の源である道志川と周辺の滝の清らかさ、丹沢山地と小さなダム群の美しさ、葉山の海の珍しい海藻、千葉・富津の熱帯性サンゴと冷水を好む水草の共生等、興味深い話が満載。

反面、憂慮すべき状況として、道志川の源流である山中湖周辺の水の汚染が進んでいること、相模川の中流域が汚れて湘南海岸がゴミの集積地になっていること、氷取沢を源流とする大岡川も例外でないこと等が報告されました。

参加者は美しい写真に目を洗われ、氏の自然への深い愛情に根差した迫真の語り掛けに感動し、大きな拍手の中で講演会は終了しました。

引き続いて懇親会が開かれ、豊田講師、本部の湯藤理事長・田林専務理事・細江事務局長、佐久間京葉会

代表、参加者全員に竹トンボをプレゼントしてくれた末松さんも参加され、カラオケも飛び出すなど和やかに行われました。（飯田吉辰）

■昼カラオケ会五周年記念行事開催

（9月16日　参加者30名）

平成23年8月に立ち上げた神奈川会昼カラオケ会の五周年記念行事が9月16日30名近いカラオケ愛好者が参集して、新横浜の会場で開催されました。当会発足後初の会合では8名の方が参加し、幸先の良いスタートでしたが、その後参加者は半減し淋しい月が暫く続き、とても現在の賑わいを予測することはできませんでした。翌年から現在の新横浜の会場に変更固定してからは、口コミ、ホームページでの案内、神奈川新聞社の取材による新聞報道などにより当昼カラオケ会の存在が徐々に広まり、今では毎月30名前後の方々が集う盛況な会に発展しております。

講演会風景

カラオケ会の五周年記念行事

当日は当会設立の経緯等の報告に続いて、各人が当会に参加した動機や感想等を述べ合い、その後抽選により選ばれた方々が自慢の唄を披露するなど和気藹々の雰囲気のうちにセレモニーが終了しました。五周年は単なる通過点にすぎません。さらに5年後の十周年記念行事に本日参加した全員が健康で元気に参集することを誓い合って笑顔で散会しました。（蓮井　暁）

■第52回イベント「神奈川新聞社」と「日本新聞博物館」の見学と「横浜中華街にて昼食」

（9月23日　参加者36名）

小雨の中、36名の参加者がＪＲ関内駅に集合した。最初の「神奈川新聞社」を訪問。記者より新聞ができるまでのビデオ鑑賞と新聞の役割など全般についての概要説明を受けた。その後編集局を見学したが午前中でもあり空席多く静かだった中で時折共同通信社からのニュースが放送されていたのが情報を早く入手する新聞社ならではと印象的だった。

ついで、7月にリニューアルオープンした「日本新聞博物館」では幕末から今日までの新聞の歩み、仕組みなどがテーマごとに展示されていた。特に、横浜が日本初の日刊紙を創刊していることも同館の設立に関係しているようです。入館後全員の集合写真をパソコンに取り込んだ「日本産業退職者協会神奈川会」名で当日付の特別記念新聞が印刷されて参加者全員に配布された。

最後に横浜中華街の重慶飯店にて飲茶コースのランチを楽しんだ。丸いテーブルの4卓に各9名が収まり

日本新聞博物館にて

次々と出てくる料理を食べながら本日の見学での話題から日頃の関心ごとなど口の休まる暇もない程皆満足した食事会であった。一部時間が足りなかったので充分見学できなかった面があったが多くの参加者よりは中身の濃いイベントであったとの声があった。

（木村一雄）

京葉会

■四季の会&京葉会合同イベント

羽田クロノゲート見学と穴守稲荷拝観

（9月30日　参加者47名）

前日と打って変わった秋晴れに恵まれ京急・穴守稲荷駅に集まった参加者は47名と京葉会の最多記録となり世話人も張り切って最初の目的地羽田クロノゲートに向かいました。

ヤマトグループの地域貢献の一環で地域の人との共生を目指し自然環境と調和した「和の里」の築山を背景に記念撮影を済ませ、最新の物流を探検する見学コースに向かいます。コースには五つのアトラクションが準備されていますが圧巻はメインの「見学者コリドー」です。かなり広い部屋に何本もの枝分かれしたベルトコンベヤーのラインがやがて川の本流ともいえる一本のラインに合流し、その上を宅急便の荷物がかなりの速さでチェックされながら流れていきます。何か不都合がある荷物は直ちにチェックされています。一日当たり60万個の処理能力があるそうです。最後にちょっとしたお土産をゲットすると見学は終了です。

次の目的地はそこから徒歩5分ほどのパワースポットとして人気の穴守稲荷。今は羽田空港になっている開墾田を水害から守るために「風浪が作りし穴の害より田畑を守り給う稲荷大社」として勧請されたそうです。奥の宮や築山稲荷などのパワースポットを散策したところでいったん解散し、その後希望者は京急線で羽田空港まで足を延ばして各人それぞれが屋上の展望を楽しんだり、気に入った店を見つけて昼食を摂ったりして楽しんだ一日も流れ解散です。

（富川　正）

羽田クロノゲート

■第20回　月島・佃島界隈散策ともんじゃ焼きを楽しむ

（11月21日　参加者35名）

月島・佃島界隈は昔懐かしい街並みと、近代的なビル群がひとつの風景の中にある、何か不思議なスポットです。平成20年に放映されたNHK朝のドラマ「瞳」の舞台にもなり、一躍有名になりました。そんな街で、子供たちが駄菓子屋の店先で食べていたおやつがもんじゃ焼きです。

今にも降り出してきそうな空模様の中、雨が降らないことを祈りながら地元のガイドさんの案内で出発しました。前半は月島地区の散策です。月島と言えばもんじゃ焼き、とすぐに浮かんでくるほど有名になり、現在百軒程のお店があるそうです。

そのもんじゃ通りを抜けて、隅田川の最下流に架けられた勝鬨橋に到着しました。勝鬨の名は日露戦争の勝利を記念したのが由来です。中央部が真ん中に割れて開く跳開橋ですが、橋上の交通量の激増で昭和45年を最後に閉鎖されています。現在国の重要文化財に指定されています。

月島・佃島界隈散策

お昼はもうひとつのお楽しみのもんじゃ焼きです。初めての方もいましたが、お店の方から懇切丁寧に焼き方を教えていただきました。子供の頃に立ち返ったような、そんな懐かしさを感じながら、アルコールも入って、皆さん時間を忘れて楽しいひとときを過ごしていました。

お腹が満腹になったところで後半は佃島地区の散策です。江戸時代に摂津国（大阪）の佃村の漁師たちによって造られたことからその名が付けられました。一行は大きな銀杏の木がお堂の中に食いこんでいる光景が印象的な天台地蔵尊や、地元の守り神の住吉神社を参拝。

さらに江戸時代から続いている老舗の佃煮屋さんでお買い物をしてから、最後の目的地隅田川河畔に到着しました。

石川島灯台跡や川向こうの景色を楽しみながらのんびりと歩き、パリのセーヌ川にちなんで命名されたパリ広場で記念写真をパチリ。

最後までどうにか天候が持ちこたえてくれたことに感謝しながら、ゴールの月島駅に向かいました。

（佐久間征二）

埼玉会

■ボッシュ社　東松山工場見学記

（6月7日　参加者20名）

6月7日（火）東松山駅から徒歩10分の東松山工場を見学。

ボッシュ社は世界最大の自動車部品（他にも産業機器・エネルギー機器・消費財等生産）メーカーで

ボッシュ社　東松山工場にて

2015年の総売り上げは706億ユーロ余。世界各地に440社を有している。ロバート・ボッシュが1886年に独逸に創立した。

東松山事業場は昭和14年ディーゼル機器として発足し、昭和47年日本ボッシュに改名、超高精度加工を誇る技術会社で、ディーゼルエンジン用の部品を製作。

工場内には自動の組立機械や加工機類が整然と立ち並んでいるが短時間の見学では内容が正直よくわからなかった。

帰路、箭弓（やきゅう）稲荷神社を参拝後、参加者22人中14名が東松山名物焼き豚を賞味し散会。

（高橋　淳）

■「埼玉県防災学習センター」を見学して

（7月7日　参加者13人）

熊谷の予想気温30度という猛暑の日、JR吹上駅に参加者13人が集合。

コミュニティバスに乗り継ぎ、バス停より5分強歩きセンターに到着。中はクーラーが効いていて、やっと人心地がつく。係の人から15分ほど地震のメカニズムや対策などの講習を受け、防災ミニシアターに移り、災害ドキュメンタリーのビデオを見る。その後、約2時間、地震体験、煙体験（煙の充満した薄暗く曲がりくねった30メートル程の通路を通り抜ける）、防風体験（風速30メートルの風を体感）、消火体験（水消火器で参加者全員が交代で火のついた天ぷら鍋を消火）を実地体験した。中でも、地震体験は熊本の震度7の揺れを体感したが手すりに捕まっているのがやっとで震度5の揺れとは全く違い、大変良い体験ができました。

埼玉県防災学習センター

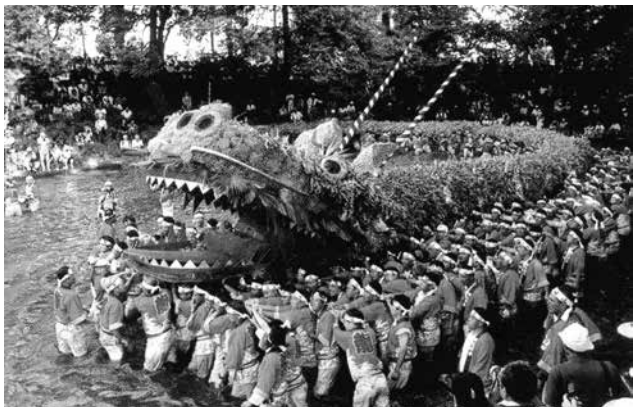
まだ、当センターを訪れたことがない方は、いろいろと勉強になりますので、是非行ってみてください。

（菊池正美）

■『脚折雨乞（すねおりあまごい）』（鶴ヶ島市）

（8月7日　参加者10人）

「脚折雨乞」は国の選択無形民俗文化財（平成17年）と市指定の無形文化財（昭和51年）に指定される江戸時代中期を起源とする伝統行事で、長さ36m、重さ約3トンの巨大な龍蛇を藁と竹でつくって行う雨乞行事です。龍蛇は地区の白鬚神社で入魂の儀によって「龍神」となり、この龍神を老若男子約300人が約2kmの離れた雷電池（かんだちいけ）まで担いで練り歩きます。到着すると、龍神を池に入れて、「雨降れたんじゃく、ここに懸かれ黒雲」と必死に叫び、雨乞いを行います。その後、龍神はその場で解体され、龍神昇天となって行事が終わります。



脚折雨乞

脚折雨乞はもとは日照りがつづいた年に行われた「降雨祈願」でした。しかし、昭和39年の日照りを最後に、本来の「雨乞い」から「伝統行事の保存」へとその目的が変わり、現在は4年に一度（オリンピック開催年、昨年は8月7日）行われています。

この雨乞行事は関東で比類がない貴重な庶民信仰であり、今も「脚折雨乞行事保存会」の人達によって保存継承されています。平成25年には、「ふるさとイベント大賞」に輝いています。

（地畑健吉）

■秩父秋の七草寺巡りに参加して

（9月13日　参加者24人）

秋の訪れを伝えてくれる長瀞七草寺巡りに癒しを求め参加させていただきました。

まず、撫子の不動寺から参拝し、寺の裏山一面に赤萩、白萩がある洞昌院、次の遍照寺では葛の花。小生は初めてだったので、寺の人にたずねると「葛棚に穂状花序が立ちあがって、赤紫の花がついているそれが葛の花です」と教えてもらいました。桔梗の多宝寺、真性寺では女郎花が元気良くたくさん咲いていました。6番目は藤袴の法善寺、最終の道光寺では、まるで狐の尻尾のように大きくフサフサした尾花があり、写真を撮るのに夢中になりました。また、趣味で集めているご朱印は、どのお寺も達筆で素晴らしいものでした。最終のお寺では記念品まで頂戴いたしました。

秩父秋の七草寺巡り

朝の雨からは想像できない位の散策日和となり、帰りのバスの中の懇親会も盛り上がって楽しく有意義な一日を過すことが出来ました。

（倉片　隆）

■埼玉会ゴルフ同好会の報告

平成22年3月30日（火）を第一回目とする埼玉会のゴルフコンペも、

第19回ゴルフコンペ（武蔵OGM）

武蔵ＯＧＭという素晴らしいコースで年間３回開催し、今年11月14日（月）のコンペをもって第20回目の節目を迎えた。今年度３回の成績は次のとおり。

第18回　６月10日（参加９名）
優勝：相吉澤、
２位：萩埜、
３位：高嶌

第19回　９月12日（参加14名）
優勝：畠山、
２位：萩埜、
３位：三木

第20回　11月14日（参加11名）
優勝：相吉澤、
２位：萩埜、
３位：地畑

現在同好会登録メンバーは34名ながら、ここ数回は３～４組（14～15名）程度になって少し寂しい。新年度は、新メンバーを募りながら賑やかに開催できることを期待したい。

（ゴルフ同好会幹事）

西東京会

■第25回イベント「寄席・落語鑑賞会」（９月27日　参加者22名）

西東京会の恒例イベント「寄席落語鑑賞会」は五回目を迎え、今回は江戸以降の伝統を重んじて桟敷席を設けるなど、古き寄席の風情を今に残す新宿「末廣亭」で催しました。

昼席は正午開演から落語や漫才、漫談に加え様々な色物も織り混ぜながら次々と演じられました。

噺し継がれた古典落語や笑いが止まらない新作物、そして鮮やかな奇術や曲芸には大きな拍手が沸きました。客席から「待ってました」の掛け声に場内が大いに盛り上がってゆきました。お馴染の夫婦漫才はどこか懐かしく、時の流れを感じました。

中入りを挟み終演の午後四時半まで、たっぷりと伝統芸能を堪能し、笑いと寛ぎの時間を過ごしました。追い出し太鼓に送られて外に出た時たったいまトリを務めたばかりの三遊亭笑遊師匠が目の前に現れ、見事な早変わりに皆びっくりしました。お願いして席亭をバックに一緒に記念写真を撮りました。（前列中央が笑遊師匠）

近くの居酒屋での飲みにケーションでまた盛り上がり楽しい一日となりました。

（西納政光）

■而今（にこん）

９月30日（金）「多摩カントリークラブ」で開催された「日退協、西東京会主催親睦ゴルフ会」でグロス95。初参加も優勝ありとの寛大なルールのお蔭で、優勝いたしました。

日退協には、湯藤理事長と安田火災同期のご縁でお誘い頂き、７月11日の「はつらつふれあいの集い」に参加し、入会させてもらいました。日退協には、多彩な事業活動、サークル活動のメニューがあり、元気な企業ＯＢ、ＯＧ会員が社会貢献活動、健康文化サークル活動でイキイキされているのを拝見し、また特に女性会員の元気さに感心いたしました。

充実した余生を元気に過すには、広く多方面の方々と交流し、共に楽しく活動することが大切と言われています。禅の言葉に「而今」があります。「今の一瞬」過去や未来に囚われず、今をただ精一杯に生きることかと思います。今回の行事参加を皮切りに皆様との幅広いお付合いよろしくお願い致します。

（山中　弘）

新宿「末廣亭」前にて

広島支部「陶芸同好会」の紹介

陶芸同好会　代表世話人　宮本信昭

「陶芸同好会」は平成十五年四月に公民館を活動場所にして発足しましたが、途中から陶芸教室指導者の都合で閉鎖と同じ状況になり残念ながら活動は一時中断しました。

その後、焼成窯設備がある会場を探し現在の活動拠点の公民館にて陶芸が出来ることになり、平成十七年二月から改めて活動の再開が可能になりました。

当公民館内「陶芸クラブ」に日退協会員九名が入会し、作陶活動はクラブの会則に従って月平均四回の活動を行う事となりました。

陶芸作品を完成するまでには、土選び・土練り・技を伴う成形、自然乾燥、素焼き焼成、作品に色や模様表現等の釉薬つけ、温度管理が大事な本焼き焼成等の工程が伴います。

この会には特別の指導者はいませんが長年陶芸を楽しまれている方の技や助言を参考にして、お互いが学び合い助け合いながら作陶行程全てに関わる事で、難しさや面白さを味わいながら段々と作陶に慣れ失敗も繰り返し、自分の好みや想いが作品になる喜びを味わう事が出来る会です。

其の後同好会に入会希望者も増えてきましたが、作陶会場の人数制限もあり、現在は別のグループ「鉢作り教室」に入会して月三回の活動を同じ様にされています。従って陶芸同好会は二つの会に分かれて作陶を行っています。

以上の状況の中での陶芸同好会合同の活動を紹介します。

活動の一つは、広島支部陶芸同好会として作品展示会を開催しています。

過去にはＮＴＴ展示場や銀行内展示を開催した事もありますが、最近ではＮＨＫ広島放送局ギャラリー会場にて年一回を二年続けて開催し、一般者の来場や日退協会員の多くの皆さんと交流を図っています。

次に「広島市高齢者作品展 達人たちの夢」開催には広島支部複数の同好会と共に作品を展示して交流を図っています。

また、陶芸活動拠点の「公民館まつり」には毎年作品を展示参加し地域市民と交流も行っております。

楽しみは一泊で陶芸窯元巡りの旅を行い、窯元の作業所と作品に出遭い、多くの事を学んで作陶に大事なヒントを得ており、又旅での楽しい思い出は何時までも心に残る様です。

以上の活動の合間には不定期ですが合同で集い親睦の酒宴も行いつつ何か事を行う際にも秀でた能力を発揮される会員十二人が楽しく活動を行っています。

展示会風景

第29回損保OBの集い（平成28年9月16日）

特別講演「時局を読む～日本の内政・外交はどう動くのか～」

学習院大学特別客員教授　岩田　公雄

今回の特別講演の講師には、日本を代表する著名ジャーナリストであり、学習院大学特別客員教授の岩田公雄先生をお迎えし、竹内啓介会長のご紹介のあと、ご講演をいただきました。

〈講演内容の概要〉

■今の安倍政権の状況……今の安倍政権は「一強多弱」と「政高党低」の二つの言葉で言い表せる。実際、総理官邸が決めたことですべてが動いている。自民党内では総裁任期を3期9年に延長するとささやかれている（その後、10月27日に決定）。政治の要諦はチェックアンドバランスであり、健全な野党が必要である。与党の独走ということがあってはならない。

■不安材料1　アメリカ大統領選……仮に、トランプが出てきたら、今まで全く想定しない政策も考えなければならない（その後、トランプが選出された）。

■不安材料2　中国の覇権主義……中国の覇権主義の最たるものは領土問題である。南沙の領有権はよその国の話ではなく、日本の尖閣と同じ立場にある。このところ尖閣周辺に中国の公船が頻繁に出没している。これに対し、現在は海上保安庁が対応しているが、海上自衛隊が対峙することになれば、中国も海軍が出てくる。武力衝突が起こる可能性を秘めた危険な状況となる。外交が最も重要であるにもかかわらず、中国との外交のパイプが極めて細くなっている現在、非常に心もとない。

■不安材料3　北朝鮮問題……弾道ミサイルの発射実験、核実験など、北朝鮮の暴挙は枚挙に暇はないが、それを封じ込める手立ては今のところない。中国の立場としたら、金体制が崩壊し、統一韓国ができたとしても、韓国の内政の問題である以上、中国は認めざるを得ない。しかし、韓国内の在韓米軍が中朝国境にまで、配備するというようなことになったら、絶対に認められない。また、北朝鮮崩壊後の難民問題は中国にとっては、大問題であり、難民受け入れは難しい。一方、経済が落ち込んでいる韓国にとっても統一韓国のインフラ整備を行うだけの力はない。日本にとっても、どう対応するかは悩ましい問題である。

■北方領土問題（北方4島とは歯舞・色丹・国後・択捉）……最近では3島プラスワンという言葉が出始めている。これは、3島の返還を前提とし択捉を共同管理するという新しい発想である。安倍さんはプーチンとの12月の山口会談でこの線で決着したいと考えているようである。また、安倍さんにとって、この3期9年の任期延長は単に政権の延命というより、返還を実現した名宰相として歴史に名を残したい、そのための必要な任期延長である。

■おわりに……安倍さんは60％の高支持率を背景に強面の政策を推進している。しかし、真に基礎をもう一度作り直すには内政も含めて経済、外交に目配りをした地道な政策をやっていただくことが求められていると思う。

（抄録／石井　憲）

岩田公雄氏

公益社団法人 日本産業退職者協会 役員名簿（50音順）

（平成29年1月20日現在）

役員

会長　前田晃伸
副会長　関根貞夫
理事長　湯藤哲
専務理事　安藤隆夫
専務理事　田林巖樹
常務理事・事務局長　細江謙夫
常任理事　糸数冨美江
常任理事　井上国春
常任理事　大里璋子
常任理事　倉片厚子
常任理事　佐久間征二
常任理事　髙島進一
常任理事　畠山忠昭
常任理事　藤崎大四郎
（常任理事・広島支部長）
常任理事　牧康司
常任理事　山田雅彦
理事　石井憲
理事　伊藤春江
理事　吉川敏孝
理事　遠間ひで子
理事　西村修
理事　橋本隆夫
理事　福島龍郎
理事　満田将太
監事　江口俊治
監事　横堀尚昭

顧問

上神圭二
榎本郁夫
梶田省三
久野木行美
松多昭三
山鹿素雄
山本惠朗

参与

市川千尋
岩渕芳夫
加藤孝子
芝山茂
鈴木俊二
鈴木裕史
店網俊夫
富川正
西納政光
日高三誠
三砂善之介
鷲山俊男
渡部俊一

編集後記

この号の特集には生山匡先生に「少し無理をする健康づくり」について寄稿していただくようにお願いしました。このテーマに出合ったのは〈埼玉会〉の企画した講演会でしたが、生山先生のお話を聞き「あ、これだ！」とその場で特集のテーマに選びました。実際には、講演での人を惹きつける先生の話しぶりは、文字にしてみるとその魅力を少し失っているような気がしますが、その代わり、資料を手元に置いて何度か読み返すことの出来る、マチュリティ掲載ならではの良さがあります。健康は私たちにとって何物にも代え難い大切なものです。私もちょっと負荷をかけながら自分の健康維持、いや、体力増進に努めていきたいと思っています。

マチュリティでは多くの会員からの投稿をお願いしていますが、みなさまには快く引き受けていただき、編集部では大変助かっています。お会いしたことの無い方の、何気ないレポートに気づかされて自分の刺激になっていることにたくさん巡り会います。つくづく、いろんなところでいろんな人が呼吸し、交流をしているのだな、と思わされることの連続です。新しい年が、会員の方々をさらに豊かなものにしてくれることを祈っています。

（黒木重昭）

MATURITY・第一〇四号
二〇一七年一月二〇日発行
発行人　湯藤哲
編集人　黒木重昭
発行所　公益社団法人 日本産業退職者協会
〒101-0026 東京都千代田区神田佐久間河岸51 第一スレートビル7階
電話　〇三（六二四〇）九三八一
ファックス　〇三（六二四〇）九三八二
ホームページ　http://jarp.or.jp/
※無断転載を禁ず
©

法人・団体　会員名簿

（平成 29 年 1 月 20 日現在）

株式会社イトーヨーカ堂
片倉工業株式会社
共栄火災海上保険株式会社
株式会社グリーンホスピタリティーマネジメント
五洋建設株式会社
ＪＦＥスチール株式会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
大和証券株式会社
宝酒造株式会社
東京海上日動火災保険株式会社

東京建物株式会社
株式会社千代田セレモニー
トーア再保険株式会社
西松建設株式会社
日本カーボン株式会社
一般社団法人日本損害保険協会
ヒューリック株式会社
富士火災海上保険株式会社
芙蓉総合リース株式会社
文唱堂印刷株式会社

株式会社ベネフィット・ワン
丸大食品株式会社
丸紅株式会社
みずほ信託銀行株式会社
株式会社みずほフィナンシャルグループ
株式会社ミツウロコグループホールディングス
安田不動産株式会社
ユニバース開発株式会社
株式会社リサ・パートナーズ

（五〇音順）

会員の作品から

▲みなとみらいのオブジェ
菅　克之
目立ちませんが何となく好きなオブジェです。本体とその影が面白いと思い撮りました。

▲書き初め
竜田　正彦（広島支部）
毎年広島に於いて、1月の第3日曜日に開催される「全国男子都道府県駅伝大会」のスタート前に会場近くのNHK会館にて催される事業がある。この年は女子高校生による「書き初め」大会でした。

▲シャチのパフォーマンス
岡野　静江
鴨川シーワールドのシャチのパフォーマンス。4頭をカメラに収(おさ)めるのに一苦労。突然目の前に現われる忍者の様です。

▲霧の海
永山　義博（広島支部）
12月のある朝、我が団地から霧の海が見えた。山の斜面にある団地だから雲海はよく見え、急いで写真を撮った。中国地方では、秋から冬にかけてよく雲海が出る。